

令和6年度
農薬使用ガイド

『農薬の適正な使用を』

農薬ラベルの
「適用作物」と「使用方法」を
確認の上、使用しましょう。



音更町農業協同組合

木野農業協同組合

十勝農業改良普及センター
十勝北部支所

日甜音更原料事務所

～農薬の適正使用について～

農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載している事項を確認の上、農薬を使用しましょう。

◆適用農作物を確認

農薬は製剤ごとに使用できる農作物が異なります。
使用したい農作物がラベルに記載されているか必ず確認しましょう。

◆使用量・希釈倍率を確認

ラベルに記載されている使用量・希釈倍率を確認しましょう。
そして、農薬を調整する時には、使用する農薬の量の計算間違いに注意しましょう。

◆使用時期を確認

農薬には「収穫〇日前まで」といった使用時期が定められています。
使用する前に必ずラベルの使用時期を確認し、収穫予定日までの日数が確保されているか確認しましょう。

◆使用回数を確認

農薬は含有する有効成分ごとに使用できる総使用回数が定められています。
農薬の使用記録簿には有効成分ごとの使用回数を記載し、農薬の使用前に使用記録簿とラベルにより使用回数を確認しましょう。

◆その他確認事項

ラベルに記載されている適用病虫害の範囲及び使用方法、使用上の注意事項並びに最終有効年月を確認し記載事項に従って使用しましょう。

農薬が適正に使用されないと

残留基準を超えて農薬が残留する可能性があります。

『残留農薬自主検査結果に対する十勝管内J Aの対応統一ルール』では
残留農薬基準値を超えた場合、あるいは**適用外農薬が検出された場合**
<基準値以下であっても> 当該生産者の残留の可能性がある範囲の
生産物を**出荷自粛あるいは自主回収**することとなります。

◆ポジティブリスト制度とは？

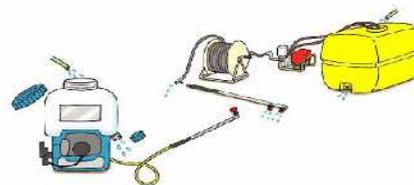
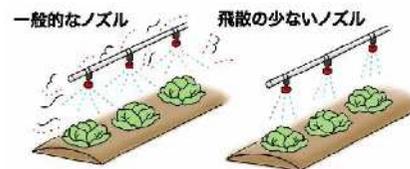
食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通等を原則禁止する制度です。（平成18年5月29日施行）

※一定量とは、「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」として原則0.01ppmとなります。

○なにが問題になるのか？

農薬を適正に使用していても、隣の畑から農薬が飛んできて、登録外の農薬がかかることがあります。この飛散（ドリフト）が原因で、出荷後の検査で基準外の残留農薬が検出されると、罰せられることとなります。

※農薬の飛散(ドリフト)防止対策が大切です！！



< 散布時の注意 >

！風の弱い時に風向きに気を付けて散布しましょう。

！散布の方向や位置に気を付けて散布しましょう。

！散布圧力を上げすぎないように、ノズルも飛散低減用ノズルを使用しましょう。

< 農薬使用器具・スプレーヤ等の洗浄 >

！必要分の薬液を作り、残さない。

！器具・スプレーヤ等に清水を通し、ホース・タンク等を洗浄する。

目 次

・ 万一、農薬の中毒事故が起きたときは	1
・ 農薬使用上の注意	2
・ 毒性の基準内容	3
・ 病害虫防除及び除草剤使用ガイド（畑作）	
小麦	4
大豆	6
小豆	8
菜豆（除く、べにばないんげん）	10
ばれいしょ	12
てんさい	14
・ 病害虫防除及び除草剤使用ガイド（野菜）	
ながいも	18
にんじん	20
たまねぎ	22
ねぎ	26
ブロッコリー	28
かぼちゃ	30
グリーンアスパラガス	32
ほうれん草	34
ごぼう	36
カリフラワー	38
スイートコーン他	40
・ 除草剤 1 デントコーン・牧草	42
・ 除草剤 2 小麦収穫跡地・非農耕地	44
・ 除草剤の使い方 1	46
・ 除草剤の使い方 2	48
・ 種子処理用殺虫・殺菌剤の使い方	50
・ くん煙剤	52
・ 展着剤の種類	53
・ 空中散布用農薬	54
・ 浸透移行性・浸達性	56
・ 農薬混用事例集	58
・ 農薬希釈早見表	裏表紙

万一、農薬の中毒事故が起きたときは

【直ちに医師をよぶ】

◆医師が来るまでの応急処置

- ア) 皮膚についた時は直ちに石けんでよく洗い流す。
- イ) 目に入った時は直ちに15分以上洗眼し、眼科医にみてもらう。
- ウ) 口に入った時は直ちにうがいをさせた後、水や食塩水を大量に飲ませ口に指を差し込んで吐かせ、これを胃の内容物がなくなるまで繰り返す。
- エ) 薬剤を衣服の上にこぼした時は下着まで全部脱がせ、石けんで全身をよく洗い、新しく着替えさせる。
- オ) 新鮮な空気のところでは身体を楽にし、安静にする。
- カ) 受診の際には、農薬中毒の原因となった農薬の容器またはラベルを持参する。

農薬中毒110番 中毒発生時の緊急問い合わせ先
つくば 電話 029-852-9999
(365日、9時~21時対応)

大 阪 電話 072-727-2499
(365日、24時間対応)

に問い合わせ、具体的な治療方法を照会する。

農薬使用上の注意

◆農薬散布前の注意

- (1) 農薬には使い方や注意事項があるので、必ず読むこと。
- (2) 散布作業に必要な”マスク・保護クリーム・手袋・帽子・長靴・長袖上衣・長ズボン等”を準備する。
- (3) 機械の故障や整備状況を点検する。
- (4) 子供や家畜が作業現場に近づかぬように注意する。
- (5) 睡眠不足、病後の人、妊婦、生理日の婦人、手足に傷のある人、皮膚病やアレルギー体質の人、貧血、肝臓の悪い人等は防除作業をしない。
- (6) 中毒になった人は、完治後1ヶ月以上散布作業をしない。
- (7) 薬剤散布直後には、ほ場に入らない。

◆農薬散布時の注意

- (1) 服装は防水した作業衣を着用し、極力皮膚の露出部分を少なくする。
- (2) 農薬の運搬では、ビンが割れたり、袋が破れて飛散しないように注意する。
- (3) 河川から直接、水を汲み取りしないこと。
- (4) 薬液は、排水や河川に絶対に流さないこと。
- (5) 作業は日中の暑いときは避け、連日の散布も避けること。
- (6) 薬液調整時や散布時に露出部分に付かないようにする。
- (7) 散布時に風向を考え、風下から風上に向かって作業を進め、薬液を直接浴びないようにする。
- (8) 休憩時や散布後にタバコを吸ったり、食事をする場合には、必ず手や顔をよく洗い、同時にうがいをする。
- (9) 作業中に頭痛、めまい、吐き気など気持ちが悪くなった場合には作業を中止する。
- (10) 薬液が皮膚に着いた場合は、直ちに石けん水で洗い、散布液を浴びたときは、衣服を替える。
- (11) 防除作業には十分な余裕をとり、無理に強行しない。

◆農薬散布後の注意

- (1) 作業終了後は使用した容器、機具をよく洗うこと。
- (2) 使い残しの農薬は密封し、人畜に危険のない場所に厳重に保管する。
- (3) 作業終了後は、手足はもちろん全身を石けんでよく洗うこと。
- (4) 作業に使用した衣類は石けんで洗い、翌日はそのまま着用しない。
- (5) 作業後の晩は、飲酒を慎み、夜更かしをしない。
- (6) 気分が悪いときは、医師の診断を受ける。

※RACコードについて

RACコードとは、世界的な農薬製薬会社の国際団体が定めた農薬分類コードのことで、作用性の種類ごとにつけられた農薬のコード番号のことです。

「IRAC：殺虫剤分類」「FRAC：殺菌剤分類」「HRAC：除草剤分類」の3分野があり、ガイド上ではそれぞれ、「I：」「F：」「H：」と短縮表記しております。

RACコードを確認し、同一コードの薬剤を連用しない様に心掛けてください。

毒性の基準内容

◆毒性関係

○普通物、劇物、毒物の類別基準は次のとおりである。

急性毒性の強さの目安

暴露経路	毒物	劇物	普通物
経口毒性	LD ₅₀ ：50mg/kg以下	LD ₅₀ ：50～300mg/kg	LD ₅₀ ：300mg/kg超
経皮毒性	LD ₅₀ ：200mg/kg以下	LD ₅₀ ：200～1,000mg/kg	LD ₅₀ ：1,000mg/kg超
吸入毒性	LC ₅₀ ：(ガス)500ppm(4hr)以下 LC ₅₀ ：(蒸気)2.0mg/L(4hr)以下 LC ₅₀ ：(ガス・ミスト)0.5mg/L(4hr)以下	LC ₅₀ ：(ガス)500～2,500ppm(4hr) LC ₅₀ ：(蒸気)2.0～10mg/L(4hr) LC ₅₀ ：(ガス・ミスト)0.5～1.0mg/L(4hr)	LC ₅₀ ：(ガス)2,500ppm(4hr)超 LC ₅₀ ：(蒸気)10mg/L(4hr)超 LC ₅₀ ：(ガス・ミスト)1.0mg/L(4hr)超

※LD₅₀：50%半数致死量（一定時間内に実験動物の半数を死亡させる致死量）

※LC₅₀：50%半数致死濃度（一定時間内に実験動物の半数を死亡させる、気体内或いは液体中の毒物の濃度）

◆魚毒関係

平成17年度より魚毒性分類に代わる新たな評価基準が導入されており、新規申請のあった製剤のほか、既登録薬剤についても順次、新評価に基づく使用上の注意事項が定められ、全製剤が新評価法に基づく使用上の注意事項に切り替わっているため、農薬一覧表の魚毒性の欄については掲載しない。魚毒性農薬の使用にあたっては魚毒性分類ではなく、製剤ごとの注意事項を確認すること。

使用者における農薬の適正な保管管理

1. 農薬は必ず鍵のかかる場所に施錠保管し、盗難や紛失に万全を期すこと。
2. 毒物・劇物に該当する農薬の保管場所にはそれぞれ「医薬用外毒物」「医薬用外劇物」の表示をし、普通物の農薬と区別して保管すること。
3. 保管場所は農薬が飛散し、漏れ、流れ出、又は地下にしみ込む恐れのない所を選ぶこと。
4. 使用後、残った農薬を他の容器に移し替えることは事故につながるため絶対にしないこと。

◎小 麦

月 旬	4			5			6			7		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ	起生期			幼穂形成期			出穂期			乳熟期		
病 害 虫 防 除 期 間	眼 紋 病			うどんこ病			赤かび病			アブラムシ		

項目	病 害 虫 名	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 濃 度 (倍)	10a当 量 量 (水100L)	適 正 使 用 基 準 使 用 時 期 回 数
殺 菌 剤	眼 紋 病	カンタスドライフロアブル	普	1Kg	1,500	66g	4 5 日 2
	うどんこ病・赤かび病	ミリオネアフロアブル	劇	500ml	4,000	25ml	7 日 2
	うどんこ病 赤かび・赤かび病	プロラインフロアブル	普	1L	2,000	50ml	2 1 日 2
		バラライカ水和剤	普	2Kg	500	200g	1 4 日 2
	赤かび・赤かび病	ミラビスフロアブル	普	500ml 5L	1,500	66ml	7 日 2
	赤 か び 病	チルト乳剤 2 5	普	500ml 5L	1,000	100ml	3 日 3
		ベフラン液剤 2 5	劇	500ml 1L	1,000	100ml	1 4 日 1
雪 腐 病	フロンサイド S C	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	根雪前	2
	トップジン M 水和剤	普	500g	2,000	50g		3
殺 虫 剤	アブラムシ	ウララ D F	普	500g	4,000	25g	7 日 2
	アブラムシ・アワヨトウム ギキモグリバエ	スミチオン乳剤	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	7 日 1

項目	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 時 期	10a当 量 量	草 種 別 除 草 効 果				
						シロサ	タデ	ハコベ	ゾクサ	
春 処 理	トレファノサイド乳剤	普	500ml 5L	小麦生育期 (雑草発生前) (収穫4 5日前まで)	200~300ml	◎	○	○	×	◎
	M C P ソーダ塩	普	1.5Kg 6Kg	小麦の幼穂形成期 (収穫4 5日前まで)	300g	◎	○	◎~○	○	×
	エコバートフロアブル	普	500ml	小麦止葉抽出前まで (春期広葉雑草2~4葉期) (広葉雑草4葉期まで) (収穫4 5日前まで)	50~75ml	◎	◎	◎	×	×
	バサグラン液剤	普	500ml 3L	小麦の幼穂形成期 (春生丈のみ) (収穫4 5日前まで)	100~150ml	◎	◎	◎	△	×
	ハ ー モ ニ ー D F	普	10g 50g	小麦の幼穂形成期 (収穫4 5日前まで)	7.5~10g	◎	◎	◎	△	△
ギシギシ類 小麦の幼穂形成期 (収穫4 5日前まで)				3~5g						
秋 処 理	ゴーゴーサン乳剤	普	500ml 2L 5L	は種後 (雑草発生前) ~小麦2葉期 (イネ科雑草1葉期まで)	300~400ml 土壌処理 又は 生育処理	◎	◎	◎	×	◎
	ガレーズ乳剤	普	2L	は種後~出芽前 (雑草発生前)	200ml 土壌処理	◎	○	◎	×	◎
				小麦出芽後~出芽揃期 (雑草発生前)	150ml 生育処理					
ガルシアフロアブル	普	2L 5L	は種後出芽前 (雑草発生前)	200ml 土壌処理	◎	○	◎	×	◎	
小麦出芽直前~小麦3葉期 (雑草発生前~発生前)	100~200ml 土壌処理 又は 生育処理									

上	8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						は種 (除草剤)						
												雪腐病

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:7	ホスカリト	・幼穂形成期に使用する。散布時期が遅くなると効果が劣る。 ・連作は場及び短期輪作は場で使用す。
F:7	インビルフルキサム	・5~6月の高温多湿によりまん延する。 ・出穂前に発病した場合防除を行う。出穂後は赤かび病と同時防除が可能。
F:3	プロチオコナゾール	<小麦 赤かび病 ローテーション防除体系> 時期 農薬名 倍率 出穂揃 6月上旬 プロラインフロアブル (×2000) 6月中旬 ミラビスフロアブル (×1500) 6月下旬 バラライカ水和剤 (×500)
F:M4 F:3	キャプタン テブコナゾール	・出穂揃い(1回目)の防除から、1週間間隔でローテーション防除を行う。 ・バラライカ水和剤は成分としてキャプタン・テブコナゾールを含む。キャプタンの総使用回数は4回以内、テブコナゾールの総使用回数は3回以内 (根雪前は1回以内、融雪後は2回以内)
F:3	プロビコナゾール	・ベフラン液剤2 5 (イミノクタジン)の総使用回数は3回以内、但し出穂期以降は1回以内 ・チルト乳剤2 5 (プロビコナゾール)の総使用回数は5回以内 (根雪前は2回以内、春期以降は3回以内)
F:M7	イミノクタジン酢酸塩	
F:29	フルアジンナム	紅 色 大 糞 黒 色 小 糞 小 糞 小 糞 雪 腐 菌 糞 菌 糞 菌 <混用順> ①展着剤 ②フロンサイド S C ③トップジンM水和剤
F:1	チオファネートメチル	フロンサイド S C ◎ トップジンM水和剤 × ◎ × ×
I:29	フロニカミト	・防除はアブラムシの密度が1穂当たり7~11頭を目処に行う。(通常、出穂10日後1回散布で十分)
I:1B	MEP	

気 温	環 境 条 件		残 効 使 用 時 間 回 数	RAC コード	成分名	注 意 事 項			
	土 壌 湿 度	処 理 後							
高	低	湿	乾	降雨	移動				
○	○	◎	△	○	小	長 1	H:3	トリフルメリン	・砂土及び過湿の透水不良圃場での使用は避ける。 ・越年した雑草は対象としていないので、は種後に慣行の除草剤を使用する。 ・トレファノサイド乳剤・ガレーズ乳剤は成分としてトリフルメリンを含む。トリフルメリンの総使用回数は4回以内
◎	×	○	△	△	大	中 1	H:4	MCPナトリウム塩	・晴天高温時(20℃以上)に効果が高い。 ・クローバ混播の場合はクローバ本葉の2葉期以降に散布する。
×	○	○	△	×	小	無 2	H:14	ビラフルフェンエチル	・MCPと混用の場合はMCP300g/10a+エコバートF L50ml/10a ・低温条件下でも安定した効果がある。緑肥クローバ混播圃では使用しないこと。 ・高温時の散布は避け、展着剤・乳剤との混用は薬害を助長する恐れがあるのでしない。 ・散布後白色斑点を生じる事がある。
○	×	○	△	×	大	極短 1	H:6	ペンタゾン	・MCPと混用の場合はMCP300g/10a+バサグラン液剤100ml/10a ・晴天時(気温20℃前後)に散布する。 ・緑肥クローバ混播圃では使用しないこと。
◎	△	○	△	△	小	短 1	H:2	チフェンスルフロニメチル	・タンクやホース内に薬液が残らないよう、使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合に薬害の原因にならないように注意する。 ・薬が変色することがある。 ※P.48参照 ・MCPと混用の場合はMCP300g/10a+ハーモニーDF3~5g/10a
○	○	○	△	○	極小	長 1	H:3	ペンテイメタリン	
○	○	○	△	○	小	長 1	H:12 H:3	ジフルフェニカ トリフルメリン	・腐植の少ない土壌では薬害が生じやすいので使用しない。 ・散布後、一過性の白斑を生じる事がある。 ・ガレーズ乳剤・ガルシアフロアブルは成分としてジフルフェニカを含む。ジフルフェニカの総使用回数は1回以内
○	○	○	△	○	小	長 1	H:15 H:12	インダノファン ジフルフェニカ	

◎大豆

月旬	種子	4			5			6			7		
		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
生育ステージ				は種期		出芽期						開花	
病害虫防除期間	各種病害					アブラムシ						菌	

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当薬量(水100L)	適正使用基準 使用時期 回数	
殺菌・殺虫剤	苗立枯病 葉斑病 ネバム	クルーザーMAXX	普	240ml	原液8ml/ 乾燥種子1kg	-	は種前	1
殺菌剤	わい化病	アブラムシに登録のある薬剤を参照						
	べと病	プロボーズ顆粒水和剤	普	500g 1kg	1,000	100g	21日	2
	菌核病	トップジンM水和剤	普	500g	700~1,000	142~100g	14日	4
殺虫剤	アブラムシ	ウララDF	普	500g	4,000	25g	7日	2
		モスピランSL液剤	劇	500ml 1L	4,000	25ml	14日	3
	マメシクイガ	プレバソンプロアブル5	普	250ml 500ml/1L	4,000	25ml	7日	2
	アブラムシ・カメムシ類 マメシクイガ	ゲットアウトWDG	劇	500g	3,000	33g	7日	3
		スミチオン乳剤	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	21日	4

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果					
						シロザ	タデ	ハコベ	ツクサ	イネ科一年生	
除草剤	コダールS水和剤	普	500g 1kg	は種後出芽前 (雑草発生前)	225~300g	◎	○	◎	△~ ×	◎	
	フルミオWDG	普	100g	は種後出芽前 (雑草発生前)	5~10g	◎	◎	◎	△	△	
	デュアルゴールド	普	250ml 2L	は種後出芽前 (雑草発生前)	70~100ml	△ ×	△	△	○	◎	
	ラッソー乳剤	普	500ml 5L	は種後~出芽前	300ml	△	△	◎	○	◎	
	殺菌剤	パワーガイザー液剤	普	500ml 3L	出芽直前~出芽前 (雑草発生始期~発生前期)	200~300ml	◎	◎	◎	×	△
					初生葉展開期~1葉期 (雑草2葉期まで)						
	ワンサイドP乳剤	普	500ml 1L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫60日前まで)	100ml	×	×	×	×	◎	
	ナブ乳剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫30日前まで)	200ml	×	×	×	×	◎	
	ボルトフロアブル	普	2.5L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫30日前まで)	250ml	×	×	×	×	◎	

上旬	8			9			10			11		
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
期						成熟期			収穫期			
マメシクイガ												
核病、灰色かび病												

RACコード	成分名	注意事項
I:4A F:12 F:4	チアメトキム フルジキニル メフラキニル	・種子処理方法(塗液処理) 処理順 ①クルーザーMAXX → ②(根粒菌) ・塗液処理は事前に行い十分に乾燥させてからは種する。 ・発芽が半日~2日遅れることがあるが、その後の生育に影響はない。 ※P. 50参照
		・「ジャガイモヒゲナガアブラムシ」は「わい化病」を媒介するので防除を励行する。 ・ほ場周辺のクローバ類は、わい化病の感染源となっていることが多い。
F:40 F:M5	ベンチアハリカルブ イゾプロピル TPN	・べと病は、発生を確認(上から見て1葉に30個以上の病斑が見られたら)したら防除を行うこと。 ※べと病 発生が多い品種 音更大袖・いわいくろ・ユキシズカ
F:1	チオファネートメチル	<大豆 ローテーション防除体系> 時期 薬剤 倍率 薬剤 倍率 6月下旬 ウララDF (×4000) 8月上旬(花が見えてから10~15日後) トップジン (×700) 8月中旬(莢が2~3cmとなった時) プレバソン (×4000) + ゲットアウト (×3000) 8月下旬(マメシクイガ1回目防除の7~10日後) スミチオン (×1000)
I:29	フロニカミト	
I:4A	アセギプロリト	
I:28	クロタラコリアPローラ	・クルーザーMAXXを使用していない場合は、初生葉展開期のモスピランSL液剤を散布し、は種後1ヵ月を目処にウララDFを散布する。 ・クルーザーMAXXを使用する場合は、は種後1ヵ月を目処にウララDFを散布する。 (ローテーション防除体系参照)
I:3A	シベルメトリン	・「マメシクイガ」の防除は8月中旬に1回目、その後7~10日で2回目の散布を実施する。
I:1B	MEP	

環境条件						残効期間	使用回数	RACコード	成分名	注意事項
気温		土壌湿度		処理後						
高	低	湿	乾	降雨	移動					
◎	○	○	△~ ×	○	小	長	1	H:15 H:5	S-メトラクロール プロトリン	・散布直後の多量の雨は薬害が生ずる恐れがあるので、雨前の散布は避ける。
◎	◎	◎	△~ ×	○	小	長	1	H:14	フルミオキサン	・処理時期が出芽前に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 ・使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じる恐れがある。 ・タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後にできるだけ早く専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。 ※P. 48参照 ・混用例 フルミオWDG 5g + デュアルゴールド 100ml フルミオWDG 5g + ラッソー乳剤 300ml
○	△	◎	×	○	小~ 中	長	1	H:15	S-メトラクロール	・砂土では使用しない。 ・砂土系で透水性の良いほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。
○	△	◎	×	○	小~ 中	長	1	H:15	アラクロール	
◎	○	△	△	△	小	短	1	H:2	イマシ [®] モックス アンモニウム塩	・効果の発現はやや遅効性で散布後1週間~赤褐変し、2~3週間~枯死する。 ・雑草発生前での散布は効果が劣る。…土壌処理効果はほとんど期待できない。 ・有機リン系殺虫剤又はイネ科除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ・使用時期を逸すると作物の生育に影響が出る恐れがある。 ・初生葉展開以降の散布は、天候により薬の浸透、縮葉、生育の抑制が生じることがある。 ※P. 46参照
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	フルアジ [®] ホップP	
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	セトキシジム	・スズメノカタビラに効果が劣る。 ・スズメノカタビラの発生が多いほ場では、セレクト乳剤75ml/10aを使用する。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	キヤ [®] ロホップ [®] エチル	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。

◎小豆

月 旬	種子	4		5		6		7			
		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ					は種期		出芽期				開花
病害虫 防除期間	各種病害									炭疽病	
										アブラムシ	
											輪紋

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度 (倍)	10a当薬量 (水100L)	適正使用基準	
							使用時期	回数
殺菌・ 殺虫剤	茎疫病 ネブラム病 アブラムシ	クルーザーMAXX	普	240ml	原液8ml/ 乾燥種子 1kg	-	は種前	1
殺菌 剤	菌核病 炭疽病 核紋病	トップジンM水和剤	普	500g	1,000	100g	14日	4
	菌核病 炭疽病 核紋病	オルフィンフロアブル	普	1L	2,000	50ml	7日	3
	菌核病 炭疽病 核紋病	フロンサイドSC	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	21日	3
	菌核病 炭疽病 核紋病	プライア水和剤	普	500g 1kg	1,000	100g	14日	4
殺虫 剤	茎疫病	リドミルゴールドMZ	普	1kg	500	200g	30日	3
	アズキノメイガ	プレバソフロアブル5	普	250ml 500ml/1L	4,000	25ml	7日	2
		ディアナSC	普	200ml	2,500 ~5,000	40~20ml	前日	2
	アブラムシ アズキノメイガ アブラムシ アズキノメイガ マメホソクチソウムシ	バイスロイド乳剤	劇	500ml	2,000	50ml	7日	3
	アブラムシ アズキノメイガ マメホソクチソウムシ	ゲットアウトWDG	劇	500g	3,000	33g	7日	3
	アブラムシ アズキノメイガ マメホソクチソウムシ	スミチオン乳剤	普	500ml 1L 5L	1,000	100ml	21日	4
	アブラムシ	モスピランSL液剤	劇	500ml 1L	4,000	25ml	14日	3
ウララD		普	500g	4,000	25g	7日	2	

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科 一年生
除 草 剤	ピンサイド乳剤	普	2L	は種後 (は種後2~5日)	330~400ml	○	◎	◎	×	○
	パワーガイザー液剤	普	500ml 3L	出芽直前~出芽揃 (雑草発生始期~発生盛期)	200~300ml	◎	◎	◎	×	△
	ワンサイドP乳剤	普	500ml 1L	イネ科雑草3~5葉期 (収穫50日前まで)	75~100ml	×	×	×	×	◎
	ナブ乳剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫14日前まで)	200ml	×	×	×	×	◎
	ボルトフロアブル	普	2.5L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫50日前まで)	250ml	×	×	×	×	◎

上 期	8		9		10		11	
	中	下	上	中	下	上	中	下
炭疽病				成熟期				
病	菌核病・灰色かび病							
	マホソクチソウムシ・アズキノメイガ							

RAC コード	成分名	注 意 事 項
I:4A F:12 F:4	チアメトキサム フルジメキサム メタラキシルM	・種子処理方法(塗液処理) 処理順 ①クルーザーMAXX → ②(根粒菌) ・塗液処理は事前に行い十分に乾燥させてからは種する。 ※P.50参照
F:1	チオファネートメチル	・「灰色かび病」の防除は耐性菌が発生する恐れがあるので、ローテーション防除を行うこと。
F:7	フルオピラム	<小豆 ローテーション防除体系> 時 期
F:29	フルジメキサム	6月下旬 8月上旬(花が見えてから7~10日)
F:10 F:1	ジエトフェンカルブ ヘノニル	8月中旬(1回目防除の10日後) 8月下旬(2回目防除の10日後)
F:M3 F:4	マンゼブ メタラキシルM	・リドミルゴールドMZは、耐性菌ができてしまうため運用はしない。 ・リドミルゴールドMZは成分としてマンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は3回以内。 ・クルーザーMAXX、リドミルゴールドMZは成分としてメタラキシルMを含む。メタラキシルMの総使用回数は4回以内。 (但し、種子粉衣及びは種前の塗液処理は合計1回以内、は種後は3回以内)
I:28	クロラントリニリアール	
I:5	スピネトラム	・「アズキノメイガ」は産卵盛期である7月下旬~8月上旬に防除する。
I:3A	シフルリン	
I:3A	シベルメリン	
I:1B	MEP	
I:4A	アセタミプリト	・近年アブラムシの被害が多いので、は種後1ヵ月を目処に散布する。(ローテーション防除体系参照)
I:29	フロニカミト	

環 境 条 件			RAC コード	成分名	注 意 事 項					
気 温	土 壌 湿 度	処 理 後								
高	低	降 雨	残 効 期 間	使 用 回 数						
○	◎	◎	△	○	小 ~ 中	長	1	H:5 H:23	プロトリン IPC	・沖積土及び砂質土等の透水性の良い場合は、散布後雨が多いと薬害が出やすい。は種深度は3~4cmとする。
◎	○	△	△	△	小	短	1	H:2	イマダモックス アンモニウム塩	・効果の発現はやや遅効性で散布後1週間で赤褐色変し、2~3週間で枯死する。 ・雑草発生前での散布は効果が劣る。…土壌処理効果はほとんど期待できない。 ・使用時期を逸すると作物の生育に影響が出る恐れがある。 ※P.46参照
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	フルジメキサム	・スズメノカタビラに効果が劣る。 ・スズメノカタビラの発生が多い場合は、セレクト乳剤75ml/10aを使用する。
○	○	△	△	△	極小	極短	2	H:1	セトキシム	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	キザロホップエチル	

◎菜豆 (除く、べにばないんげん)

月 旬	種子	4		5			6			7		
		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育ステージ							は種期		出芽期			開花期
病害虫 防除期間	各種病害								かき枯れ病			炭疽病
							タネバエ		黄化病・アブラムシ			菌核病

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度 (倍)	10a当り量 (水100L)	適正使用基準 使用時期 回数
殺菌剤	かたさ枯病 エ	粉衣用ペアーカスミンD	劇	100g	種子重量の0.3%	(種子30Kgに90g)	は種前 1
	かさ枯病	カスミンボルドー	普	500g 1.25Kg	1,000	100g	30日 3
	黄化病	アブラムシに登録のある薬剤を参照					
	炭疽病・菌核病	トップジンM水和剤	普	500g	1,000	100g	7日 4
殺菌剤	菌核病	オルフィンフロアブル	普	1L	2,000	50ml	7日 3
	菌核病	ブライア水和剤	普	500g 1Kg	1,000	100g	14日 4
	炭疽病						
殺虫剤	タネバエ	クルーザーFS30	普	250ml	原液 6ml/ 乾燥種子 1kg	-	は種前 1
	アブラムシ	ウララD F	普	500g	4,000	25g	7日 2
	アブラムシ	ダントツ水溶剤	普	500g	4,000	25g	前日 3
	インゲンマメゾウムシ	バイスロイド乳剤	劇	500ml	2,000	50g	7日 3

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当り量	草種別除草効果				
						シロガ	タデ	ハコバ	ツクサ	イネ科一年生
除草剤	コダールS水和剤	普	500g 1Kg	は種後出芽前 (雑草発生前)	225~300g	◎	○	◎	△~ ×	◎
	ピンサイド乳剤	普	2L	は種後 (は種後2~5日)	330~400ml	○	◎	◎	×	○
	フルミオWDG	普	100g	は種後出芽前 (雑草発生前)	5~10g	◎	◎	◎	△	△
	デュアルゴールド	普	250ml 2L	は種後出芽前 (雑草発生前)	70~100ml	△~ ×	△	△	○	◎
	ラッソー乳剤	普	500ml 5L	は種後~出芽前	300ml	△	△	◎	○	◎
	パワーガイザー液剤	普	500ml 3L	出芽直前~出芽期 (雑草発生前~発生初期)	200~300ml	◎	◎	◎	×	△
	ワンサイドP乳剤	普	500ml 1L	イネ科雑草3~5葉期 (収穫45日前まで)	75~100ml	×	×	×	×	◎
	ナブル乳剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫14日前まで)	200ml	×	×	×	×	◎
	ポルトフロアブル	普	2.5L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫50日前まで)	250ml	×	×	×	×	◎

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		成熟期		収穫期							
灰色かび病											

RAC コード	成分名	注 意 事 項
I:1B F:24 F:M3	ダイズリン カスカマイン チリウム	・粉衣後なるべく早くは種する。
F:24 F:M1	カスカマイン 塩基性塩化銅	・カスミンボルドーと粉衣用ペアーカスミンDはカスカマインを含む。カスカマインの総使用回数は3回以内(種子粉衣は1回以内)
		・「黄化病」は「ジャガイモヒゲナガアブラムシ」が媒介するので防除を励行する。 ・ほ場周辺のクローバ類は、「黄化病」の感染源となっていることが多い。
F:1	チオファネートメチル	
F:7	フルビラム	<菜豆 ロテーション防除体系> 時期 薬剤 倍率 薬剤 倍率 7月下旬(花が見えてから5~7日) オルフィンフロアブル (×2000) + バイスロイド乳剤 (×2000) 8月上旬(1回目防除の10日後) ブライア水和剤 (×1000)
F:10 F:1	シエトフェンカルブ ベノミル	・「灰色かび病」は耐性菌が発生する恐れがあるので、ローテーション防除を行うこと。 白い葉が見えたらワグマダグの防除の1回目 ダントツ水溶剤 (×2000) ワグマダグの防除の1回目の10日後 バイスロイド乳剤 (×2000)
I:4A	チアマトキサム	・種子処理方法(塗抹処理) 処理順 ①クルーザーFS30 → ②(根粒菌) ・塗抹処理は事前に行い十分に乾燥させてからは種する。 ・クルーザーFS30を使用する場合は、初生葉展開期のダントツ水溶剤の茎葉散布は不要。 ※P.50参照
I:29	フロニカミド	
I:4A	クロチアニジン	
I:3A	シフルトリン	

環境条件						残効 期間	使用 回数	RAC コード	成分名	注 意 事 項
気 温	土 温	湿度	乾燥	処理後	移動					
◎	○	○	△ ~ ×	○	小 ~ 中	長	1	H:15 H:5	S-トラクロール プロトリン	・沖積土及び砂質土等の透水性の良いほ場は、散布後雨が多いと薬害が出やすい。は種深度は3~4cmとする。
○	◎	◎	△	○	小 ~ 中	長	1	H:5 H23	プロトリン IPC	・沖積土及び砂質土等の透水性の良いほ場は、散布後雨が多いと薬害が出やすい。は種深度は3~4cmとする。
◎	◎	◎	△ ~ ×	○	小	長	1	H:14	フルミオキサジン	・処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 ・使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じる恐れがある。 ・タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合に、薬害の原因にならないよう注意する。 ※P.48参照 ・混用例 フルミオWDG 5g + デュアルゴールド 100ml フルミオWDG 5g + ラッソー乳剤 300ml
○	△	◎	×	○	小 ~ 中	長	1	H:15	S-トラクロール	・砂土では使用しない。 ・砂土系で透水性の良いほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。
○	△	◎	×	○	小 ~ 中	長	1	H:15	アラクロール	・使用できる品種：金時(赤系) うずら
◎	○	△	△	△	小	短	1	H:2	イマダモックス アンモニウム塩	・効果の発現はやや遅効性で散布後1週間~赤褐変し、2~3週間~枯死する。 ・雑草発生前での散布は効果が劣る。…土壌処理効果はほとんど期待できない。 ・使用時期を逸すと作物の生育に影響が出る恐れがある。 ※P.46参照
○	○	△	△	△	極 小	極 短	1	H:1	フルアジノホップP	・スズメノカタビラに効果が劣る。 ・スズメノカタビラの発生が多いほ場では、セレクト乳剤75ml/10aを使用する。
○	○	△	△	△	極 小	極 短	2	H:1	セトキシジム	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。
○	○	△	△	△	極 小	極 短	1	H:1	キザノホップエチル	・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。

◎ばれいしょ

月 旬	種子	4		5		6		7	
		上	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ		植付			萌芽期	着蕾期		開花期	
病害虫 防除期間	種いも消毒				ナストビハムシ		疫病		アブラ
									軟腐
									菌核病

8		9		10		11	
上	中	上	中	上	中	上	中
		黄変期		収穫期			
ムシ							
病							

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当量(水100L)	適正使用基準 使用時期 回数	
殺菌剤	粉状そうか病	オラクル顆粒水和剤	普	300g 1.5Kg	250g/10a		植付前	1
	菌核病	フロンスайдSC	普	500ml 1L/5L	1,000 ~2,000	100~50ml	7日	4
		カピナイスPZ水和剤	普	2Kg	600 ~800	166~125g	7日	4
	疫病	グリーンベンコゼブ水和剤	普	1Kg 2Kg	400 ~600	250~166g	7日	10
		グリーンダイセンM水和剤						
		ゾーベックエンカンティアSE	普	1L	2,000	50ml	14日	3
		プロボーズ顆粒水和剤	普	500g 1Kg	1,000	100g	7日	5
		ホライズンドライフロアブル	普	500g 1Kg	1,500	66g	14日	4
		ランマンフロアブル	普	500ml 2L	1,500	66ml	7日	4
		レーバスフロアブル	普	250ml 1L	1,500	66ml	7日	2
		軟腐病	スターナ水和剤	普	500g 1Kg	1,000	100g	7日
	疫軟腐病	マスタピース水和剤	普	100g 1Kg	1,000~ 2,000	100~50g	前日	-
		クプロシールド	普	2L	1,000	100ml	-	-
		銅ストマイ水和剤	普	1Kg	600 ~800	166~125g	7日	5
	殺虫剤	アブラムシ	ウララDF	普	500g	4,000	25g	7日
アブラムシ ナストビハムシ		コルト顆粒水和剤	普	250g	6,000	16g	前日	3
		ビレスコ顆粒水和剤	普	100g 500g	5,000~ 10,000	20~10g	7日	3
ナストビハムシ		ゲットアウトWDG	劇	500g	3,000	33g	7日	4

RAC コード	成分名	注 意 事 項							
F:21	アミルフロム	・使用方法は、整地→薬剤散布→混和(ロータリー・デスク)→植付け ・薬剤と土壌に十分に混和しないと、効果が半減するので注意すること。							
F:29	フルアジナム	・疫病は低温湿潤の日が続くと急激に蔓延するので注意すること。 ・銅ストマイ水和剤・クプロシールドは高温時の使用で薬害を生じる場合がある。 ・菌核病は、7月中旬より防除を行う。(フロンスайдSC)							
F:27 F:M3	シモキナル マンゼア	・マスタピースは常温(25℃以下)で1年(2シーズン)、予冷庫(4℃以下)で約4年の保管しかできない。 ・マスタピースは有効成分が生菌であるため、開封後は全て使い切ること。							
F:M3	マンゼア	・マスタピースは銅剤、抗生物質との混用は不可。 ・マスタピースは展着剤、ドライバ、エーズ・アイヤーエースとの混用は不可。 ・マスタピースは展着剤、ドライバ、エーズ・アイヤーエースとの混用は不可。 <生食・加工用についての疫病・軟腐病・害虫に対するローテーション防除体系>							
F:49 F:11	オキサジアピロリン ファモキトリン	時期	薬剤	倍率	薬剤	倍率	薬剤	倍率	
F:40 F:M5	ヘンチアハリカルブ イゾプロピル TPN	(6月下旬)	クプロシールド	(×1000)	(7月上旬)	エンカンティア	(×2000)	+ マスタピース (×2000)	+ ビレスコ (×10000)
F:27 F:11	シモキナル ファモキトリン	(7月中旬)	フロンサイド	(×1500)	(7月下旬)	フロボーズ	(×1000)	+ マスタピース (×2000)	+ コルト (×6000)
F:21	シアゾファミト	(7月下旬)	カピナイス	(×600)	(7月下旬)	カピナイス	(×600)	+ 銅ストマイ (×600)	
F:40	マンゼアロバミト	(8月上旬)	ランマン	(×1500)	(8月中旬)	レーバス	(×1500)	+ グリーンベンコゼブ (×400)	+ ウララ (×4000)
F:31	オキリニック酸	(8月下旬)	ランマン	(×1500)	(9月上旬)	レーバス	(×1500)		
-	シュートマソステジア	<薬粉原料用についての疫病・軟腐病・害虫に対するローテーション防除体系>							
F:M1	塩基性硫酸銅	時期	薬剤	倍率	薬剤	倍率	薬剤	倍率	
F:25 F:M1	ストロブマイシン 塩基性塩化銅	(6月下旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)	(7月上旬)	クプロシールド	(×1000)	+ ビレスコ (×10000)	
I:29	フロンサイド	(7月中旬)	フロンサイド	(×400)	(7月下旬)	フロンサイド	(×1500)	+ マスタピース (×2000)	+ コルト (×6000)
I:9B	ヒリフルキサゾン	(7月下旬)	カピナイス	(×600)	(8月上旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)	+ マスタピース (×2000)	+ ウララ (×4000)
I:4C	スルホキサフル	(8月中旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)	(8月下旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)		
I:3A	シベルメトリン	(9月上旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)	(9月中旬)	グリーンベンコゼブ	(×400)		
		(9月下旬)	クプロシールド	(×1000)					
		<ナストビハムシ防除> ・6月上旬~中旬に2回散布すること。(食用・加工用は必ず散布)							

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当量	草種別除草効果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科一年生
除草剤	モーティブ乳剤	普	500ml 5L	植付後萌芽前 (雑草発生前)	200~400ml	◎	◎	◎	○	◎
	ロロックス	普	300g 1Kg	植付直後~萌芽前 (雑草発生前)	100~150g	◎	◎	◎	△	○~ △
	バスタ液剤	普	500ml 5L	植付後~萌芽前 (雑草発生前)	200ml	◎	◎	◎	◎	◎
	ナブ乳剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫前日まで)	200ml	×	×	×	×	◎
茎葉枯調剤	デシカン乳剤	普	2L 5L	茎葉黄変期 (茎葉黄変始め~収穫3日前まで)	250~450ml	※広葉雑草に効果はあるが、イネ科雑草には効果がありません。				

環境条件							残効 期間	使用 回数	RAC コード	成分名	注 意 事 項
気 高	温 低	土 湿	壌 乾	湿度	処理後 降雨	移動					
◎	◎	◎	△	○	中	長	1	H:15 H:3	ジメナミトP ベンチメタリン	・スズメノカタビラにも効果がある。 ・萌芽直前の散布では一過性の縮葉が生じる場合がある。 ・後作物として、かぼちゃ等のうり科やほうれんそう及びそばを伴作すると生育を抑制することができるので避ける。	
◎	○	◎	△	○	小	長	1	H:5	リユロン	・砂土系で透水性の良いほ場及び多量の降雨が続く時期の散布は薬害が生じやすいので、使用を避ける。	
◎	○	△	△	×	極小	中	1	H:10	ケルホシネット	・茎葉処理剤 ・散布後6時間以内に降雨が予想される場合は散布を避ける。	
○	○	△	△	△	極小	極短	2	H:1	セトキシジム	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。	
◎	○	○	△	×	-	-	2	H:14	ヒラフルフェンエチル	・枯凋効果は、散布後3日前後から発現し、8~10日ではほぼ完成する。 1回処理を原則とするが、1回で不十分な場合に限り2回目の散布処理を行う。なお、2回目処理の使用時期は、1回目処理後3~6日目に散布する。 ※「除草剤の使い方」P. 49参照	

◎てんさい(1)

月	育苗期	4		5		6		7			
		中	下	上	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ		移植・は種				根部肥大始期					
病害虫 防除期間	苗立枯病	ジノミ				テンサイモグリハナバエ		ヨトウムシ			
		根腐病				根腐病・葉腐病					
											褐斑病

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						根部肥大最盛期				収穫期	
			ヨトウムシ								

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当り薬量(水100L)	適正使用基準 使用時期	回数	
育 苗 期	苗立枯病	突起板土詰	リゾレックスH粉剤	普	450g	突起板別 覆土量 1.1mm /7L 1.5mm /9L	1反6冊当り 7L=75g 9L=90g	は種前 (覆土用)	1
		育苗中	タチガレン液剤	普	100ml 500ml	1,000	ベーパーボット 6冊/6L 薬量6ml	は種時 ～生育初期 但し収穫 120日前 まで	3
	バリダシン液剤5		普	500ml	400	ベーパーボット 6冊/6L 薬量15ml	育苗中期	1	
	植物成長調整剤	スミセブンP液剤	普	500ml	10～20	ベーパーボット 6冊/薬量 30ml～15ml 水量300ml	本葉抽出期 (本葉2mm 以上) 移植2週間前	1	
	根腐病	ダントツリンパー顆粒水和剤	普	500g	200	ベーパーボット 6冊/6L 薬量30g	定植前	1	
	テンサイトビハムシ(ジノミ) モモアカアブラムシ								
殺 菌 剤	褐斑病	グリーンベンコゼブ水和剤 グリーンダイセンM水和剤	普	1Kg 2Kg	400	250g	21日	5	
		ムケツDX	普	1.25Kg	800	125g	21日	3	
		ホクガード乳剤	普	500ml 2L	1,500	66ml	14日	2	
		クプロシールド	普	2L	1,000	100ml	-	-	
		カスミンボルドー	普	500g 1.25Kg	800	125g	7日	5	
	褐斑病・葉腐病	グットクル水和剤	普	2Kg	500	200g	21日	2	
		フリントフロアブル25	普	2L	1,500	66ml	21日	3	
	根腐病	ミリオネアフロアブル	劇	500ml	4,000	25g	7日	4	
	葉腐病	モンカットフロアブル40	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	14日	4	
	殺 虫 剤	アブラムシ	ビレスコ顆粒水和剤	普	100g 500g	10,000	10g	7日	3
ウララDF			普	500g	4,000	25g	14日	2	
アブラムシ・ヨトウムシ		リーズン顆粒水和剤	普	500g	3,000	33g	14日	2	
ヨトウムシ		ゲットアウトWDG	劇	500g	3,000	33g	14日	4	
カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ ヨトウムシ・ナミハダニ アシグロハモグリバエ シロオビノメイガ		カスケード乳剤	普	500ml	4,000	25ml	7日	4	

RAC コード	成分名	注 意 事 項																																																																													
F:14 F:32	トルコホスメチル ヒトロキシ イソキサゾール	・10アール分の覆土を均一に混和して使用する。																																																																													
F:32	ヒトロキシ イソキサゾール	・1回目はタチガレン液剤のみとし、2回目はタチガレン液剤+バリダシン液剤5の混用で灌注する。 ・いずれも6冊当り6Lにてムラのない様に灌注する。 ※育苗期のタチガレン液剤は3回使用できるが、バリダシン液剤5は1回しか使用できない。																																																																													
F:U18	バリダマイシン																																																																														
-	ウニコゾールP	・高温時(25℃)以上の散布は控え、ノズルは苗から30cm程度離し、ムラにならないように均一に散布する。																																																																													
I:4A F:7	クロチアエジン フラトビル	・西部萎黄病は「モモアカアブラムシ」によって伝播されるので、育苗期に灌注による防除を行う。 ・定植前育苗ポット灌注処理【ダントツリンパー顆粒水和剤(500g)+水100L/100冊】																																																																													
F:M3	マンゼブ	<てんさい 褐斑病・根腐病・害虫ローテーション防除体系> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時 期</th> <th>薬 剤</th> <th>倍 率</th> <th>薬 剤</th> <th>倍 率</th> <th>薬 剤</th> <th>倍 率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月上旬</td> <td>ビレスコ</td> <td>(×10000)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月中旬</td> <td>ミリオネア</td> <td>(×4000)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月下旬</td> <td>リーズン</td> <td>(×3000)</td> <td>+ ベンコゼブ</td> <td>(×400)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月上旬</td> <td>ベンコゼブ</td> <td>(×400)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月中旬</td> <td>ウララ</td> <td>(×4000)</td> <td>+ グットクル</td> <td>(×500)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月下旬</td> <td>ムケツDX</td> <td>(×800)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月上旬</td> <td>カスケード</td> <td>(×4000)</td> <td>+ ホクガード</td> <td>(×1500)</td> <td>+ ベンコゼブ</td> <td>(×400)</td> </tr> <tr> <td>8月中旬</td> <td>フリント</td> <td>(×1500)</td> <td>+ クロチアエジン</td> <td>(×1000)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月下旬</td> <td>ゲットアウト</td> <td>(×3000)</td> <td>+ カスミンボルドー</td> <td>(×800)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月上旬</td> <td>クプロシールド</td> <td>(×1000)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	時 期	薬 剤	倍 率	薬 剤	倍 率	薬 剤	倍 率	6月上旬	ビレスコ	(×10000)					6月中旬	ミリオネア	(×4000)					6月下旬	リーズン	(×3000)	+ ベンコゼブ	(×400)			7月上旬	ベンコゼブ	(×400)					7月中旬	ウララ	(×4000)	+ グットクル	(×500)			7月下旬	ムケツDX	(×800)					8月上旬	カスケード	(×4000)	+ ホクガード	(×1500)	+ ベンコゼブ	(×400)	8月中旬	フリント	(×1500)	+ クロチアエジン	(×1000)			8月下旬	ゲットアウト	(×3000)	+ カスミンボルドー	(×800)			9月上旬	クプロシールド	(×1000)				
時 期	薬 剤	倍 率	薬 剤	倍 率	薬 剤	倍 率																																																																									
6月上旬	ビレスコ	(×10000)																																																																													
6月中旬	ミリオネア	(×4000)																																																																													
6月下旬	リーズン	(×3000)	+ ベンコゼブ	(×400)																																																																											
7月上旬	ベンコゼブ	(×400)																																																																													
7月中旬	ウララ	(×4000)	+ グットクル	(×500)																																																																											
7月下旬	ムケツDX	(×800)																																																																													
8月上旬	カスケード	(×4000)	+ ホクガード	(×1500)	+ ベンコゼブ	(×400)																																																																									
8月中旬	フリント	(×1500)	+ クロチアエジン	(×1000)																																																																											
8月下旬	ゲットアウト	(×3000)	+ カスミンボルドー	(×800)																																																																											
9月上旬	クプロシールド	(×1000)																																																																													
F:M3 F:11A	マンゼブ マルチトラブロール	・DM1剤(F:3)(グットクル・ホクガード)の使用は耐性菌の発生を防止するため、2回以内とし連続散布を避ける。 ・マンゼブ(F:M3)の総使用回数は5回です。																																																																													
F:7	インビルフルキサム	・中耕に際しては、培土を行った状態にならないようにする。																																																																													
F:7	フルトラニル	・連作は避け、ビートトップ処理を完全に行うことが最も重要である。 ・連作ほ場やビートトップが入っている場合は、早めに防除すること。																																																																													
I:4C	スルホキサフロル																																																																														
I:29	フロニクミド																																																																														
I:4A I:15	チアメトキサム ルフェスロン																																																																														
I:3A	シベルメトリン																																																																														
I:15	フルフェノクスロン																																																																														

◎てんさい(2)

月旬	育苗期	4	5		6			7			
		中・下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ		移植・は種 ジノミ				根部肥大始期 テンサイモグリハナバエ			ヨトウムシ		
病害虫防除期間		根腐病				根腐病・葉腐病			褐斑病		

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						根部肥大最盛期			収穫期		
			ヨトウムシ								

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果					
						シロザ	タデ	ハコバ	ツクサ	イネ科一年生	
除草剤	ベタハーブフロアブル	普	5L	直播 第2本葉展開後 (雑草発生揃期) (収穫60日前まで)	400~600ml	◎	◎	◎	△	△	
				移植 活着後 (雑草発生揃期) (収穫60日前まで)	500~700ml						
	ベタナール乳剤	普	1.8L 5L	直播 本葉2葉展開後 /中耕後 (雑草発生揃期) (収穫60日前まで)	500~600ml	◎	◎	◎	△	△	
				移植 活着後/中耕後 (雑草発生揃期) (収穫60日前まで)							
	ハーブラックWDG	普	2Kg	直播 雑草発生始期 ~発生揃期 (てんさい2葉期以降) (収穫30日前まで)	250~350g	◎	◎	◎	×	×	
				移植 活着後 (雑草発生始期 ~発生揃期) (収穫30日前まで)	400~600g						
	デュアルゴールド	普	250ml 2L	直播 出芽揃期 (雑草発生前)	70~100ml	△ ~ ×	△	△	○	◎	
				移植 移植後 (雑草発生前) (収穫90日前まで)							
	フィールドスターP乳剤	普	500ml 2L	直播 中耕後 (雑草発生前) (収穫45日前まで)	75~120ml	△ ~ ×	△	◎	○	◎	
				移植 移植後 (雑草発生前) (収穫45日前まで)							
ベタダイヤS乳剤	普	2L 5L	直播 中耕後 (てんさい7葉期以降) (雑草発生揃期) (収穫90日前まで)	500ml	◎	◎	◎	◎	◎		
			移植 活着後 (雑草発生揃期) (収穫90日前まで)								
ワンスайдP乳剤	普	500ml 1L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫90日前まで)	75~100ml	×	×	×	×	◎		
ナブル乳剤	普	500ml 2L	直播・移植 イネ科雑草3~8葉期 (収穫30日前まで)	200ml	×	×	×	×	◎		
ポルトフロアブル	普	2.5L	イネ科雑草3~8葉期 (収穫30日前まで)	250ml	×	×	×	×	◎		

除草剤使用時の注意事項 ベタハーブフロアブル、ベタナール乳剤、ベタダイヤS乳剤は成分としてフェンメディファムを含む。フェンメディファムの総使用回数は3回まで。
ベタナール乳剤を育苗期に1回、本畑でベタダイヤS乳剤を1回使用した場合、ベタハーブフロアブルもしくはベタナール乳剤は1回しか使用できない。
ベタハーブフロアブル、ハーブラックWDGは成分としてメタミトロンを含む。メタミトロンの総使用回数は5回まで。

環境条件				残効期間	使用回数	RACコード	成分名	注意事項		
気温	土壌湿度	処理後	移動							
高	低	湿	乾	降雨						
◎	△	○	○	△	小	中	3	H:5 H:5	フェンメディファム メタミトン	(直播) 1回目(2葉期以降) レナテン 50ml/10a +ベタハーブ 500ml/10a 2回目使用の場合(雑草発生揃期) レナテン 100ml/10a +ベタハーブ 600ml/10a (移植) レナテン 100ml/10a +ベタハーブ 600~700ml/10a ・散布水量は10a当り50~100L
◎	×	○	○	△	小	中	3	H:5	フェンメディファム	<育苗期の使用について> ・育苗期の本葉展開後(雑草発生初期) ボット60冊⇒水量3L/薬量15ml <本畑の使用について> ・晴天乾燥時に使用。 ・散布水量は10a当り50~80L
○	△	○	○	△	小	中	5	H:5	メタミトン	(直播) 1回目(2葉期以降) レナテン 50ml/10a +ベタナール 300ml/10a +ハーブラック 200~250g/10a 2回目使用の場合(雑草発生揃期) レナテン 100ml/10a +ベタナール 400ml/10a +ハーブラック 200~300g/10a (移植) レナテン 100ml/10a +ベタナール 400ml/10a +ハーブラック 200~300g/10a ・散布水量は10a当り50~100L。 ・ベタナール乳剤との混用で殺草範囲が広がり、より効果が高まる。 ・ヒユ類、タニソバ、タデ類(3~4葉期まで)などに効果が高い。 ・てんさいに対する安全性が高く、後作物に対する影響が少ない。
○	△	◎	×	○	小 ~ 中	長	2	H:15	S-メトラコロール	・砂土では使用しない。 ・砂土系で透水性の良いほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、被害の恐れがあるので使用を避ける。
○	○	○	△	○	中	長	2	H:15	ジメナジトP	・砂土では使用しない。 ・直播栽培のてんさいに使用する場合には、出芽揃期以前では生育抑制等の被害を生じる場合があるので処理時期や薬量を厳守する。
◎	△	○	△	△	小	中	1	H:5 H:5 H:15	デスメディファム フェンメディファム S-メトラコロール	・ヒユ類、ツクサ、タニソバの多いところは効果大。 ・散布後2~3日で褐色になり枯れ始め、5~7日で完全に枯死する。 ・散布水量は10a当り50~100L。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	フルアシホップP	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 ・スズメノカタビラには効果が劣る。 ・スズメノカタビラの発生が多いほ場では、セレクト乳剤 75ml/10aを使用する。
○	○	△	△	△	極小	極短	2	H:1	セトキシジム	・ナブル乳剤 シバムギ(3~5葉期)は薬量300~400ml/10a
○	○	△	△	△	極小	極短	2	H:1	キサロホップエテル	・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 ・シバムギ、レッドトップに効果があるが、スズメノカタビラには効果が劣る。 ・スズメノカタビラの発生が多いほ場では、セレクト乳剤 75ml/10aを使用する。

除草剤使用時の注意事項 ベタダイヤS乳剤、デュアルゴールドは成分としてS-メトラコロールを含む。S-メトラコロールの総使用回数は2回まで。
ベタダイヤS乳剤を1回使用した場合、デュアルゴールドは1回しか使用できない。

◎ながいも

月 旬	種子	4		5		6		7	
		上	下	上	中	下	上	中	下
病 害 虫 防 除 期 間		種子消毒		褐色腐敗病		除草剤		アブラムシ	

項目	病 害 虫 名	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 濃 度 (倍)	水100L当 薬量	適正使用基準 使用時期 回数	
殺 菌 剤	褐色腐敗病 青かび病	ベンレート T 水和剤 20	普	500g	種いも 消毒 100	1,000g	植付前	1
	根腐病	ユニフォーム粒剤	普	9Kg	18~36Kg	-	植付前	1

項目	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 時 期	10a当薬量	草 種 別 除 草 効 果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科 一年生
除 草	ロ ロ ッ ク ス	普	300g 1Kg	全面土壌散布 植付直後 畦間土壌散布 生育期 <small>(雑草発生前~発生前期) (収穫60日前まで)</small>	150g	◎	◎	◎	△	○ ~ △
	ゴーゴーサン乳剤	普	500ml 2L 5L	植付後~萌芽前 <small>(雑草発生前)</small>	400ml	◎	◎	◎	×	◎
剤	ナ プ 乳 剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~8葉期 <small>(収穫60日前まで)</small>	200ml	×	×	×	×	◎
	ワンサイドP乳剤	普	500ml 1L	イネ科雑草3~5葉期 <small>(収穫30日前まで)</small>	100ml	×	×	×	×	◎
	ポルトフロアブル	普	2.5L	イネ科雑草3~8葉期 <small>(収穫7日前まで)</small>	300ml	×	×	×	×	◎

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
薬液病											
アブラムシ											

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:M3 F:1	チラム ペノシル	・10分間種いも浸漬。(いも切り前に行う) ・種子切断後、切り口保護のため消石灰を粉衣又は塗布する。
F:11 F:4	アゾキシストロピン メタキシム	作条土壌混和

環 境 条 件						残効 期間	使用 回数	RAC コード	成分名	注 意 事 項
気 温		土 壌 湿 度		処 理 後						
高	低	湿	乾	降雨	移動					
◎	○	◎	△	○	小	長	2	H:5	リニロン	・多量の降雨が予想される時は、被害を生じる可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。 ・畦間土壌散布は作物に飛散しないように注意する。
○	○	◎	△	○	極小	長	1	H:3	ヘンテイマトリン	・多量の降雨が予想される時は、被害を生じる可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	セトキシム	・スズメノカタビラには効果が劣る。 ・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	フルジホップP	
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	キサホップエチル	

※キタネグサレセンチュウの耕種的防除としてセンチュウの密度を下げる効果のある作物を栽培する。

は種量 エンバク野生種 アウエナストリゴサ(サイアー・ハイオーツ) 15Kg / 10a

◎ねぎ

月	4		5		6		7	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下
病虫害防除期間							べと病・黒斑病・ネギアザミウマ	

項目	病虫害名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当り薬量(水100L)	適正使用基準使用時期	回数
殺菌剤	べさ黒とび斑	グリーンペンコゼブ水和剤 グリーンダイセンM水和剤	普	1Kg/2Kg	600	166g	14日	3
	べさ黒葉とび斑枯	テーク水和剤	普	250g	600	166g	14日	3
		メジャーフロアブル	普	250ml/1L	2,000	50ml	前日	3
	べと病	リドミルゴールドMZ	普	1Kg	1,000	100g	14日	3
		ベトファイター顆粒水和剤	普	100g/500g	2,000	50g	14日	3
	べと病・葉枯病	プロポーズ顆粒水和剤	普	500g/1Kg	1,000	100g	14日	3
	さび病・べと病 黄斑病・黒斑病・葉枯病 リソクトニア葉鞘腐敗病	アミスター20フロアブル	普	500ml/5L	2,000	50ml	3日	4
	黒腐菌核病・さび病 葉枯病・黒斑病	パレード20フロアブル	普	250ml/1L	2,000	50ml	前日	3
	黒斑病・さび病 黒白絹病・葉枯病	アフエットフロアブル	普	100ml/500ml	2,000	50ml	前日	2
	タマネギバエ	ダイアジノン乳剤40	劇	500ml	700	142ml	21日	2
コガネムシ類幼虫	ダイアジノン粒剤5	普	3Kg	-	6Kg/10a	は種または定植時	2	
アザミウマ類 ネギハモグリバエ	アグリメック	劇	500ml	500	200ml	3日	3	
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	普	100g	2,500	40g	3日	3	
殺虫剤	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タマネギバエ・タネバエ ネキリムシ類	ジュリボフロアブル	普	250ml	200	セル成型育苗トレイ1箱またはポット1箱(30cm×60cm)使用土壌約1.5~4L当り希釈液0.5Lを灌注する。	育苗期後半~定植当日	1
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	アクタラ顆粒水溶剤	普	500g	1,000	100g	3日	3
	アザミウマ類 ハモグリバエ	リーフガード顆粒水和剤	劇	500g	1,500	66g	7日	2
	アザミウマ類 ハモグリバエ	ベネピアOD	普	250ml/500ml	2,000	50ml	前日	3
	ネギコガ ネギハモグリバエ アザミウマ類	ディアナSC	普	200ml	2,500	40ml	前日	2
	ネギコガ ハモグリバエ アザミウマ類	グレーシア乳剤	普	250ml/500ml	2,000	50ml	7日	2

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当り薬量	草種別除草効果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科一年生
除草剤	ゴーゴーサン乳剤	普	500ml 2L 5L	定植後 定植10日後まで (雑草発生前)	300ml	◎	◎	◎	×	◎
	ロックス (露地栽培)	普	300g 1kg	定植30日後以降/中耕培土後 (雑草発生前期) (収穫30日前まで)	150g	◎	◎	◎	△	△~○

8		9		10		11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下
さび病								

RACコード	成分名	注意事項	
F:M3	マンゼブ	・グリーンペンコゼブ水和剤・グリーンダイセンM水和剤・テーク水和剤・リドミルゴールドMZは成分としてマンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は3回以内。	
F:3 F:M3	シモナリアル マンゼブ	メジャーフロアブル	
F:11	ビコキシロビン	・浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害を生じる恐れがある。 ・幼苗期では薬害を生じる恐れがあるので、散布を避ける。	
F:M3 F:4	マンゼブ メタキシLM	・ベトファイター顆粒水和剤とプロポーズ顆粒水和剤は成分としてベンチアバカルブイソプロピルを含む。ベンチアバカルブイソプロピルの総使用回数は3回以内。	
F:40 F:27	ベンチアバカルブ イソプロピル シモキニル		
F:40 F:M5	ベンチアバカルブ イソプロピル TPN		
F:11	アゾキシロビン		
F:7	ビラシフルミド		
F:7	ベンチオラト		
I:1B	ダイアジノン	有機リン	・ダイアジノンを含む農薬の総使用回数2回以内。
I:1B	ダイアジノン	有機リン	・全面土壌混和または作条土壌混和 ・ダイアジノンを含む農薬の総使用回数2回以内。
I:6	アバメクチン	マクロライド	
I:5	スピノサト	スピノシン	
I:28 I:4A	クロアテニアロール チアメトキサム	ジアミド ネオニコチノイド	・ジュリボフロアブルとアクタラ顆粒水和剤は成分としてチアメトキサムを含む。チアメトキサムの総使用回数は、4回以内。 (但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
I:4A	チアメトキサム	ネオニコチノイド	【ネギアザミウマ】 ・多照、少雨のときには発生が多いので注意する。
I:14	チオシラム	ネライストキシン	【ベネピアOD】 ・ストロビルリン系の薬剤を含む農薬及び銅剤との混用は薬害を生じる恐れがあるので、混用しない。 ・展着剤加用にあたっては事前にその適否を確認する。
I:5	スピネラム	スピノシン	
I:30	フルキサミド	イソオキサゾリン	

環境条件						RACコード	成分名	注意事項	
気温		土壌湿度		処理後					
高	低	湿	乾	降雨	移動	残効期間	使用回数		
○	○	◎	△	○	極小	長	1	H:3 ベンチメクト	
◎	○	◎	△	○	小	長	1	H:5 リニロン	・多量の降雨が予想される時は、薬害を生じる可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する) ・薬害を生じる可能性があるため、展着剤は加用しないこと。

◎ブロッコリー

月	4		5		6		7	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下
病害虫 防除期間							軟腐病・花蕾腐敗病 黒腐病	
アブラムシ・アオムシ・コナガ								

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度 (倍)	10a当量薬量 (水100L)	適正使用基準 使用時期 回数
殺菌剤	根こぶ病	オラクル顆粒水和剤	普	300g 1.5Kg	200	セル成型育苗 トレイ1箱 またはポット1冊 (30cm×60cm) 使用土壌約3~4L 当り希釈液 0.5Lを灌注する。	定植前 灌注 1
	菌核病	パレード20フロアブル	普	250ml/1L	100	セル成型育苗 トレイ1箱 またはポット1冊 (30cm×60cm) 使用土壌約1.5~4L 当り希釈液 0.5Lを灌注する。	育苗期後半 ~定植当日 1
		シグナムWDG	普	500g	1,500	66g	7日 2
	黒すす病	アミスター20フロアブル	普	500ml/5L	2,000	50ml	前日 3
		パレード20フロアブル	普	250ml/1L	2,000	50ml	前日 3
		ホライズンドライフロアブル	普	500g 1Kg	2,500	40g	前日 3
	花蕾腐敗病 軟腐病	コサイド3000	普	1Kg	1,000 2,000	100g 50g	- -
	軟花蕾腐敗病	Zボルドー	普	1Kg	500	200g	- -
		マスタピース水和剤	普	100g/1Kg	1,000	100g	前日 -
	軟腐病	スターナ水和剤	普	500g/1Kg	2,000	50g	14日 2
殺虫剤	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	普	250ml 500ml 1L	100	セル成型育苗 トレイ1箱 またはポット1冊 (30cm×60cm) 使用土壌1.5~4L 当り希釈液 0.5Lを灌注する。	育苗期後半 ~定植当日 1
	アブラムシ アオムシ ハイマダラノメイガ コナ	ガードナーフロアブル	劇	500ml	100	セル成型育苗 トレイ1箱 またはポット1冊 (30cm×60cm) 使用土壌約1.5~4L 当り希釈液 0.5Lを灌注する。	定植3日前 ~定植当日 1
	コナガ・アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	普	250ml 500ml	2,000	50ml	7日 2
	アオムシ・コナガ ヨトウムシ	プロフレアSC	普	250ml 500ml	2,000	50ml	前日 3
	アブラムシ・コナガ	アディオソ乳剤	普	500ml	2,000	50ml	3日 5
	コナガ アオムシ	スピノエース顆粒水和剤	普	100g	5,000	20g	3日 3
		プレバソンフロアブル5	普	250ml 500ml 1L	2,000	50ml	前日 3
	コナガ アオムシ ヨトウムシ	アフアーム乳剤	普	500ml	1,000	100ml	3日 3
		デアアナSC	普	200ml	2,500	40ml	前日 2
	コナガ ハスモンヨトウ	フローバックDF	普	500g	1,000	100g	前日 (発生初期) -
アクセルフロアブル カスケード乳剤		普	500ml 500ml	1,000 4,000	100ml 25ml	前日 7日 2	

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
軟腐病・花蕾腐敗病 黒腐病											
アブラムシ・アオムシ・コナガ											

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:21	アミスプロム	・オラクル顆粒水和剤は成分としてアミスプロムを含む。 ・本圃での土壌混和は2回以内、苗床での灌注は1回以内。 【定植前 土壌混和 300g/10a 2回】 ・使用方法は、整地→薬剤散布→混和(ロータリー・デスク)→植付け ・薬剤と土壌を十分に混和しないと、効果が半減するので注意すること。
F:7	ピラジフルミド	【黒すす病対策】 ・定植30日後と花蕾形成始期の2回散布が効果的。 ・8月は黒すす病の発生が増加するため、初発の防除を徹底する。 ・QoI剤(F:7)、SDHI剤(F:11)の各剤は薬剤耐性を起こしやすいので、連用を避け、交互にローテーション防除を実施する。 ・パレード20フロアブル(ピラジフルミド)の総使用回数は3回以内、但し灌注は1回以内
F:11 F:7	ビラクトロピリン ホスカリト	
F:11	アゾキシストロビン	
F:7	ピラジフルミド	
F:27 F:11	シモキサニル ファモキサトロン	
F:M1	水酸化第二銅	・使用時期は、出蕾初期(花蕾の大きさ1cm)に散布する。 ・被害軽減のために炭酸カルシウム水和剤(クレフノン200倍またはバイカルティ1,000倍)を加用すること。
F:M1	塩基性硫酸銅	但し、花蕾肥大中期以降は花蕾の焼け・汚れ等を生じることがあるので、この時期の散布は避ける。
-	シールド・モスロペシア	・マスタピースは常温(25℃以下)で1年(2シーズン)、予冷库(4℃以下)で約4年の保管しかできない。 ・有効成分が生菌であるため、開封後は全て使い切ること。 ・銅剤、抗生物質との混用は不可。展着剤、ドライパー・ニース・アイヤーエースとの混用は不可。
F:31	オキリニック酸	
I:28	クロラントリブロール	ジ ア ミ ド ・プレバソンフロアブル5(クロラントリブロール)の総使用回数は、4回以内。 (但し、定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内) ・ガードナーフロアブルとスピノエース顆粒水和剤とファルコンエースフロアブルは成分としてスピノサドを含む。 スピノサドの総使用回数は4回以内。 (但し、定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内)
I:4A I:5	イミダクワドリト スピノサド	ネオニコチノイド スピノシン 【コナガ】 ・同一薬剤の連続散布は、コナガに対して抵抗性が付きやすいので避けること。 ・コナガに対しては、早期に発見し若齢のうちに防除する。 ・夏期高温時は定植活着後に散布する。 ・BT剤は水量を多めに使用すると効果が大きい。 ・プロフレアSCは、はなやさい類での登録。
I:30	フルキサミド	イソオキサゾリン
I:30	プロフエニト	メタジアミド
I:3A	ベルマトリン	合 ビ レ
I:5	スピノサド	スピノシン
I:28	クロラントリブロール	ジ ア ミ ド
I:6	エタメキソ安息香酸塩	マクロライド
I:5	スピネトラム	スピノシン
I:11A	BT(生菌)	B T 生 菌
I:22B	メタフルミゾン	セミカルバゾン
I:15	フルフェクスロン	ベンゾイル尿素 (I G R)

◎かぼちゃ

月	4		5		6		7	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下
病害虫 防除期間							うどんこ病	
							ハダニ・アブラムシ	
							ウリハムシ	

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
疫病・べと病・つる枯病											
(マキバカスミカメ)											

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度 (倍)	10a当薬量 (水100L)	適正使用基準 使用時期 回数	
殺菌 剤	うどんこ病	ベルコート水和剤	普	500g	1,000	100g	7日	4
		イオウフロアブル	普	1L	500	200ml	-	-
	つる枯病	アフエットフロアブル	普	100ml 500ml	2,000	50ml	前日	3
	うどんこ病 黒斑病 つる枯病	ダコニールエース	普	1L/4L	1,500	66ml	7日	3
	うどんこ病 べと病	ストロビーフロアブル	普	500ml/1L	3,000	33ml	前日	3
	果実斑点細菌病	コサイド3000	普	1Kg	2,000	50g	-	-
イデクリーン水和剤		普	500g	500	200g	-	-	
殺虫 剤	アブラムシ	モスピランSL液剤	劇	500ml/1L	2,000	50ml	前日	2
	ハダニ類	ニッソラン水和剤	普	500g	2,000	50g	前日	2

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:M7	イミタジン アルベシル酸塩	
F:M2	硫黄	
F:7	ベンチビラト	【つる枯病】 ・防除時期は開花後20日目、30日目を中心とした防除が有効。 散布水量は150L/10aが望ましい。
F:M5	TPN	
F:11	クソキシムメチル	
F:M1	水酸化第二銅	・1番果着蕾期(開花7日前)から7日間隔で2~3回散布する。
F:M2 F:M1	硫黄 塩基性塩化銅	
I:4A	アセミプリト	
I:10A	ヘキシチアゾクス	

◎グリーンアスパラガス

月	4		5		6		7	
	中	下	上	中	下	上	中	下
病害虫 防除期間							① ②	
	養成畑の防除間隔						ギ 業 展 開 直 前	
							①	
	収穫畑の防除間隔							

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
③			④ ⑤			⑥					
(斑点病)											
②			③ ④ ⑤								

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当薬量(水100L)	適正使用基準 使用時期 回数
殺菌剤	斑茎 点枯 病	アフエットフロアブル	普	100ml 500ml	2,000	50ml	前日 4
		ダコニールエース	普	1L/4L	1,500	66ml	前日 4
		フロンサイドSC	普	500ml 1L/5L	2,000	50ml	農地限定 収穫後 但し 秋期まで
		Zボルドー	普	1Kg	500	200g	- -
殺虫剤	ネキリムシ類	ガードベイトA	普	2Kg	-	3Kg/10a	前日 3
	アブラムシ・ヨトウムシ シチュウシホシクビナガハムシ	アデイオン乳剤	普	500ml	2,000	50ml	前日 3
	アザミウマ類 カメムシ類	モスピランSL液剤	劇	500ml/1L	4,000	25ml	前日 2
	アオムシ・コナガ ヨトウムシ・ハスモンヨトウ	フローバックDF	普	500g	1,000	100g	前日 (発生初期) -
	ヨトウムシ ネギアザミウマ	プレオフロアブル	普	500ml	1,000	100ml	前日 2
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	普	100g	5,000	20g	前日 2

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:7	ベンチオラト [®]	・薬液は茎葉にムラなくかかるように散布する。 ・生育量に応じて散布水量を多くする。(200~300L/10a)
F:M5	TPN	
F:29	フルアジ [®] ナム	
F:M1	塩基性硫酸銅	
I:3A	ベルメトリン	・株元、または圃場全体に散布すると、夜間活動するネキリムシを誘い出し、食べさせて退治できる。
I:3A	ベルメトリン	・ガードベイトA、アデイオン乳剤は成分としてベルメトリンを含む。ベルメトリンを含む農薬の総使用回数は3回まで。
I:4A	アセチアグリド [®]	
I:11A	BT(生菌)	
I:UN	ヒリダグリル	
I:5	スピノサト [®]	

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当り薬量	草 種 別 除 草 効 果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツククサ	イネ科 一年生
除 草 剤	センコル水和剤	普	300g 1Kg	萌芽前又は 収穫打切後 (雑草発生前~ 雑草4.5薬期)	150g	◎	◎	◎	◎	◎ ~ ○
	ナブ乳剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3~5薬期 (収穫前日まで)	200ml	×	×	×	×	◎
	ザクサ液剤	普	500ml 6L	一年生雑草 萌芽前(雑草生育期) 又は 収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)	500ml	◎	◎	◎	◎	◎
一年生雑草、多年生広葉雑草 収穫打切後 (雑草生育期)				500ml	◎	◎	◎	◎	◎	

環 境 条 件						残効 期間	使用 回数	RAC コード	成分名	注 意 事 項
気 温	土 温	湿 度	乾 燥	処 理 後	移 動					
高	低	湿	乾	降雨	移動					
○	○	△	△	△	極小	長	1	H:5	トリアジ [®] ン	・収穫打切り後の処理については移行性があるので必ず未収穫のアスパラガスを知ってから散布する。 ・苗床及び未収穫養成畑では使用を避け、また未収穫養成畑において間作物を作付する場合は使用しない。 ・収穫打切り後の処理で、き業展開後に散布した場合は薬害が生じることがあるのでき業展開前に散布し使用量を厳守する。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	セトキシ [®] ム	・スズメカサネには効果が劣る。 ・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。
◎	○	△	△	×	極小	中	2	H:10	ゲルホシネットP ナトリウム塩	・畦間処理は作物にかからないように散布する。 ・雑草が大きくなり過ぎると効果が劣るので、時期を失わないように使用する(雑草の草丈30cm以下)。 ・薬液が雑草全体に良く付着するように散布する。

●定植後年数別の除草剤体系使用例

定植後年数	除草剤使用時期		処理法	除草剤	処理法	除草剤
	萌芽前	萌芽前				
定植後2年目	全面土壌処理	畦間雑草処理	-	全面土壌処理	畦間雑草処理	ザクサ液剤
定植後3年目以降 (収穫1年目以降)	センコル水和剤※1	ザクサ液剤		センコル水和剤※1	ザクサ液剤	

※1 センコル水和剤は「萌芽前」又は「収穫打切後」、どちらか1回の使用。

※定植1年目のほ場：手取り除草及び中耕
(除草剤は使用不可)

株間・株ぎわは土かけを兼ねて、ホー除草を行う。
また、畦間はロータリーを浅めに掛けるが、特に、株間は根を切らないように注意する。

※イネ科雑草専用除草剤は収穫期間を除いて、全面使用できます。

◎ほうれん草

月	4		5		6		7	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下
病 害 虫 防 除 期 間			べと病				株 腐 病	
					立枯病			
					ヨトウムシ			
			ケナガコナダニ					

項目	病 害 虫 名	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 濃 度 (倍)	10a当 薬 量 (水100L)	適 正 使 用 基 準 使 用 時 期	回 数
殺 菌 剤	立 枯 病 (ピシウム菌)	タチガレン液剤	普	100ml 500ml	500	200ml	は種時	1
	苗 立 枯 病 (リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	普	1Kg	750	133g	は種時～ 子葉展開時	1
殺 菌 剤	べ と 病	ピシロックフロアブル	普	500ml	1,000	100ml	前日	2
		ランマンフロアブル	普	500ml 2L	2,000	50ml	3日	3
殺 虫 剤	ネキリムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	フォーエス粒剤	劇	3Kg	-	9Kg	は種前	1
	タネバエ	ダイアジノン粒剤5	普	3Kg	-	6Kg	は種時	1
	ハスモンヨトウ マメハモグリバエ ホウレンソウケナガコナダニ アシグロハモグリバエ	カスケード乳剤	普	500ml	4,000	25ml	3日	3
	ミナミキイロアザミウマ アシグロハモグリバエ	パダンSG水溶剤	劇	500g	1,500	66g	7日	2
	アザミウマ類 アシグロハモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤	普	100g	5,000	20g	前日	2
	アブラムシ	アドマイヤー顆粒水和剤	劇	100g 500g	10,000	10g	前日	2
	ホウレンソウケナガコナダニ ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	ディアナSC	普	200ml	2,500	40ml	前日	2
	ハスモンヨトウ ホウレンソウケナガコナダニ	アフアーム乳剤	普	500ml	2,000	50ml	3日	2
アザミウマ類 アシグロハモグリバエ アブラムシ ホウレンソウケナガコナダニ	リーフガード顆粒水和剤	劇	500g	1,500	66g	7日	2	

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		べと病									
株 腐 病			立枯病								
ヨトウムシ											
			ケナガコナダニ								

RAC コード	成分名	注 意 事 項								
F:32	ヒト [®] ロキシ イソキサールカリウム	・ 1㎡あたり希釈液3リットル土壌灌注。								
F:7	メ [®] ロニル									
F:U17	ピ [®] カルフトラゾクス	・ 冷涼多湿条件で発病するので注意する。 ・ アルカリ性薬剤との散布はしない。								
F:21	シアゾ [®] ファイト	・ べと病の発生しやすい低温多湿の気象条件になったら、本薬2葉期に1回目、4葉期に2回目を散布する。								
I:3A	テフルリン	合	ピ	レ	・ 全面土壌混和					
I:1B	タ [®] イシン	有	機	リ	ン	・ 作業土壌混和				
I:15	フルフェキサソン	ベンゾイル尿素 (I G R)								
I:14	カルタップ	ネ	ラ	イ	ス	ト	キ	シ	ン	・ パダンSG水溶剤の高温時の使用は、薬害が発生しやすいので注意する。
I:5	スピ [®] ノサト	ス		ピ	ノ	シ	ン			
I:4A	イタ [®] クワ [®] リト	ネ		オ	ニ	コ	チ	ノ	イ	ド
I:5	スピ [®] ネラム	ス		ピ	ノ	シ	ン			
I:6	エマ [®] ク [®] チン安息香酸塩	マ		ク	ロ	ラ	イ	ド		
I:14	チオシタム	ネ		ラ	イ	ス	ト	キ	シ	ン

◎ごぼう

月 旬	4		5		6		7	
	中	下	上	中	下	上	中	下
病 害 虫 防 除 期 間	ネグサレセンチュウ							黒すじ病

項目	病 害 虫 名	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 濃 度 (倍)	10a当り薬量 (水100L)	適正使用基準	
							使用時期	回数
殺 菌 剤	黒 斑 細 菌 病	カ ス ミ ン ボ ル ド ー	普	500g 1.25Kg	1,000	100g	14日	3
	黒 条 病	フ ロ ン サ イ ド S C	普	500ml 1L/5L	1,000	100ml	21日	3
殺 虫 剤	キ タ ネ コ プ セ ン チ ュ ウ キ タ ネ グ サ レ セ ン チ ュ ウ	バ イ デ ー ト L 粒 剤	劇	20Kg	-	30Kg	は種前	1
	ア ブ ラ ム シ	ゲ ッ ト ア ウ ト W D G	劇	500g	3,000	33g	14日	5

項目	農 薬 名	毒 性	容 器 規 格	使 用 時 期	10a当り薬量	草 種 別 除 草 効 果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科 一年生
除 草 剤	アグロマックス水和剤	普	300g	は種後発芽前 (雑草発生前)	200g	△	△	◎	△	○
	ナ ブ 乳 剤	普	500ml 2L	イネ科雑草3～8葉期 (収穫30日前まで)	200ml	×	×	×	×	◎

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
黒斑細菌病											
ア ブ ラ ム シ											

RAC コード	成分名	注 意 事 項
F:24 F:M1	カスガイソ 塩基性塩化銅	
F:29	フルアジナム	
I:1A	オキサニル	・耕種防除としてセンチュウの密度を下げる効果のある作物を栽培する。 は種量 エンバク野生種 アウエナストリゴサ (サイアー・ヘイオーツ) 15Kg/10a
I:3A	シハルマトリン	

環 境 条 件						残効 期間	使用 回数	RAC コード	成分名	注 意 事 項
気 温		土 壌 湿 度		処 理 後						
高	低	湿	乾	降雨	移動					
○	◎	◎	△	○	小	長	1	H:3	フロピクミト	・砂土では使用しない。
○	○	△	△	△	極小	極短	1	H:1	セトキシム	・スズメノカタビラには効果が劣る。 ・効果の発現は遅効性で、完全枯死するまでに約2週間程度を要する。 ・広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。

◎カリフラワー

月	4		5		6		7	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下
病虫害防除期間								軟腐病
	アブラムシ・アオムシ・コナガ							

項目	病虫害名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当量(水100L)	適正使用基準 使用時期	回数
殺菌剤	根こぶ病	オラクル顆粒水和剤	普	300g 1.5Kg	200	セル成型育苗トレイ1箱 またはポット1冊 (30cm×60cm) 使用土壌約3~4L 当り希釈液 0.5Lを灌注する。	定植前	灌注1
					-	300g/10a	定植前	土壌混和2
殺菌剤	軟腐病	スターナ水和剤	普	500g/1Kg	2,000	50g	14日	2
		マスタピース水和剤	普	100g/1Kg	1,000	100g	前日	-
殺虫剤	アブラムシ	アデイオン乳剤	普	500ml	2,000	50ml	3日	5
	コナガムシ	エスマルクDF	普	500g	1,000	100g	前日 (発生初期)	-
		フローバックDF	普	500g	1,000	100g	前日 (発生初期)	-
		プロフレアSC	普	250ml 500ml	2,000	50ml	前日	3
		ディアナSC	普	200ml	2,500	40ml	前日	2
	コナウム	プレオフロアブル	普	500ml	1,000	100ml	3日	2
	コナガ	コテツフロアブル	劇	250ml	2,000	50ml	3日	2
スピノエース顆粒水和剤		普	100g	5,000	20g	3日	3	
コナムシ	アフアーム乳剤	普	500ml	1,000	100ml	3日	3	
	プレバソンフロアブル	普	250ml 500ml/1L	2,000	50ml	前日	3	

8			9			10			11		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
軟腐病			アブラムシ・アオムシ・コナガ								

RAC コード	成分名	注 意 事 項	
F:21	アミスルプロム	<ul style="list-style-type: none"> ・オラクル顆粒水和剤は成分としてアミスルプロムを含む。 ・本圃での土壌混和は2回以内、苗床での灌注は1回以内。 ・使用方法は、整地→薬剤散布→混和(ロータリー・デスク)→植付け ・薬剤と土壌を十分に混和しないと、効果が半減するので注意すること。 	
F:31	オキリニック酸		
-	シュート・モスデシア	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタピース水和剤は常温(25℃以下)で1年(2シーズン)、予冷庫(4℃以下)で約4年の保管しかできない。 ・有効成分が生菌であるため、開封後は全て使い切る。 ・銅剤、抗生物質との混用は不可。 ・展着剤、ドライバー・ノーズ・アイヤーエースとの混用は不可。マスタピース水和剤は野菜類での登録。 	
I:3A	ベルマトリン	合	ビレ
I:11A	BT(生菌)	B	T 生菌
I:11A	BT(生菌)	B	T 生菌
I:30	プロフネリト	メ	タジアミド
I:5	スピネトラム	ス	ピノシン
I:UN	ビリダール	他	合 成
I:13	クルフェナビル	ピ	ロール
I:5	スピノサト	ス	ピノシン
I:6	エマクタン安息香酸塩	マ	クロライド
I:28	クロントレニアロール	ジ	アミド

【コナガ】
 ・**同一薬剤の連続散布は、コナガに対して抵抗性が付きやすいため避けること。**
 ・コナガに対しては、早期に発見し若齢のうちに防除する。
 ・夏期高温時は定植活着後に散布する。
 ・BT剤は水量を多めに使用すると効果が大。

・プロフレアSCは、はなやさい類での登録。

◎スイートコーン

項目	病害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当薬量(水100L)	適正使用基準	
							使用時期	回数
殺菌剤	すす紋病	チルト乳剤 25	普	500ml/5L	1,000	100ml	7日	2
殺虫剤	アブラムシ・アワトウ	ゲットアウトWDG	劇	500g	3,000	33g	7日	3
	アブラムシ	アクタラ顆粒水溶剤	普	500g	3,000	33g	7日	2
		コルト顆粒水和剤	普	250g	4,000	25g	前日	3
		モスピランSL液剤	劇	500ml/1L	4,000～6,000	25～16ml	前日	3

項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科一年生
除草剤	ゴーゴサン乳剤	普	500ml 2L 5L	土壌処理 は種後出芽前 (雑草発生前)	200～300ml	◎	◎	◎	×	◎
	モーティブ乳剤	普	500ml 5L	全面土壌散布 は種後～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)	200～400ml	◎	◎	◎	○	◎
	ゲザプリムフロアブル	普	1L	土壌処理 は種後～出芽前 (雑草発生前)	100～200ml	◎	◎	◎	○	△
				生育期 雑草茎葉散布 (雑草発生期まで) 作物の2～4葉期						
	デュアルゴールド	普	250ml 2L	は種後出芽前 (雑草発生前)	70～100ml	△ ～ ×	△	△	○	◎
				雑草茎葉散布 作物の1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)						
	ラッソー乳剤	普	500ml 5L	は種後～出芽前 (雑草発生前)	200～300ml	△	△	◎	○	◎
				雑草茎葉散布 作物の1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)						
ゲザノンゴールド	普	1L	土壌処理 は種後発芽前 (雑草発生前)	140～200ml	◎	◎	◎	○	◎	
			生育期 雑草処理 作物の2～4葉期							
ブルーシアフロアブル	普	500ml 2L	とうもろこし3～5葉期 雑草生育期 (草丈15cm以下) (収穫45日前まで)	40～50ml	◎	◎	○	△	◎	
フィールドスターP乳剤	普	500ml 2L	は種後～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)	75～120ml	△ ～ ×	△	◎	○	◎	

◎牧草

項目	病害名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当薬量(水100L)	適正使用基準	
							使用時期	回数
殺菌剤	雪腐大粒菌核病 菌核病(まめ科牧草)	トップジンM水和剤	普	500g	2,000	50g	根雪前	2 1

◎大豆・スイートコーン

項目	害虫名	農薬名	毒性	容器規格	使用濃度(倍)	10a当薬量(水100L)	適正使用基準	
							使用時期	回数
忌避剤	鳥害防止	キヒゲンR-2フロアブル	普	1L	種子重量の2%	乾燥種子1kg当り 原液20ml	は種前	1 (99% 1回)

RACコード	成分名	注意事項
F:3	プロピコザール	
I:3A	シベルマトリン	・早期に徹底した防除を行う。
I:4A	チアマトキサム	
I:9B	ビリフルキサゾン	
I:4A	アセタミプリド	

環境条件							残効期間	使用回数	RACコード	成分名	注意事項
気温	湿度	土壌湿度	処理後	移動	降雨						
高	低	湿	乾	降雨	移動						
○	○	◎	△	○	極小	長	1	H:3	ペンディメタリン	・多量の降雨が予想される時は、被害が発生する可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。	
◎	◎	◎	△	○	中	長	1	H:15 H:3	ジメナミドP ペンディメタリン	・後作物として、カぼちゃ等のうり科やほうれんそう及びそばを作物すると生育を抑制することがあるので避ける。 ・ゴーゴサン乳剤と同じ成分を含むため、ゴーゴサン乳剤を使用した場合モーティブ乳剤は使用できない。	
○	△	◎	○	○	中	長	1	H:5	アトラン	・多量の降雨が予想される時は、被害が発生する可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。 ・ゲザプリムは、土壌処理又は生育期間処理のいずれか1回のみの使用。	
○	△	◎	×	○	小～中	長	1	H:15	S-メトラクロール	・砂土では使用しない。 ・低温等で生育が遅れている場合には、カスリ状の緑斑を生ずることがあるので、薬量を少なくする。 ・デュアルゴールドの使用回数は1回(単剤か混合剤のいずれか1回)。	
○	△	◎	×	○	小～中	長	1	H:15	アラクロール	・雑草発生後はほとんど効果が無い。 ・土壌が乾いていると効果が劣る。	
○	△	◎	△	○	小～中	長	1	H:5 H:15	アトラン S-メトラクロール	・多量の降雨が予想される時は、被害が発生する可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。 ・ゲザプリムフロアブル+デュアルゴールドの混合剤です。 ・ゲザプリムの使用回数は1回(単剤か混合剤のいずれか1回)。 ・デュアルゴールドの使用回数は1回(単剤か混合剤のいずれか1回)。	
○	○	◎	○	○	小	短	1	H:27	トルビラレート	・散布時の展開薬に被害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。	
○	○	○	△	○	中	長	1	H:15	ジメナミドP	・散布後、曇天、降雨日が長く続くとうもろこしに効果が劣ることがあるので、晴天を見計らって散布する。 ・散布後の器具はよく水洗いを行い、他の用途に使用する時は影響の無いよう注意する。	

RACコード	成分名	注意事項
F:1	チオファネートメチル	・11月中～下旬(根雪前)薬剤散布後の年内放牧は避ける。 ・展着剤は5,000倍・・・100Lの水に20ml使用(小麦と同様)

RACコード	成分名	注意事項
F:M3	チラム	・ポリ袋(肥料袋)などに5～10Kgの種子を入れ、種子重量の2%相当の薬剤を入れ上下左右に充分振る。 ・又は、ポリ容器などに種子を入れ、手(手袋着用)または棒で種子を混ぜながら、薬液を徐々に加えてかき混ぜる。

◎除草剤1 (デントコーン・牧草)

作物名	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果				
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科一年生
デントコーン	ゲザプリムフロアブル	普	1L	土壌処理 は種後～出芽前 (雑草発生前)	100～200ml	◎	◎	◎	○	△
				生育期 雑草茎葉散布 (雑草発生揃期) 作物の2～4葉期まで						
	ラッソー乳剤	普	500ml 5L	は種後～出芽前 (雑草発生前)	200～400ml	△	△	◎	○	◎
	ゲザノンゴールド	普	1L	土壌処理 は種後～出芽前 (雑草発生前)	140～200ml	◎	◎	◎	○	◎
				生育期 雑草茎葉散布 作物の2～4葉期まで						
	ブルーシアフロアブル	普	500ml 2L	とうもろこし3～5葉期 (収穫45日前まで)	40～50ml	◎	◎	○	△	◎
			とうもろこし6～7葉期 (収穫45日前まで)	50～75ml						
アルファード液剤	普	500ml 3L	とうもろこし3～5葉期 (収穫45日前まで)	100～150ml	◎	◎	◎	×	◎	
			とうもろこし6～7葉期 一年生雑草・イチビを含む (収穫45日前まで)							
ワンホープ乳剤	普	500ml 5L	作物の3～5葉期 (収穫30日前まで) (茎葉処理)	100～150ml	○	◎	◎	◎	◎	
牧草	アージラン液剤	普	500ml 2L	雑草の栄養生長期 (10月上旬～中旬)	新播 200～300ml 経年 300～400ml	ギシギシ類				
	ハーモニーDF	普	10g 50g	雑草生育期 夏及び秋処理 夏は種牧草定着後 (但し採草21日前まで)	新播 0.5～1g	ギシギシ類				
				雑草生育期 夏及び秋処理 (但し採草21日前まで)	経年 3g					
	クサトリキング	普	5L 20L 200L	雑草の生育盛期 (更新10日以前) (水量50L)	250～500ml 500～700ml	雑草全般 ギシギシ類・シバムギ				
草	タッチダウンIQ	普	1L 5L 20L 200L	雑草の生育盛期 (耕起10日以前) (水量25～100L)	300ml	雑草全般				
				雑草の生育盛期 (耕起10日以前) (水量50～100L)	300～500ml	ギシギシ類				
				フキの栄養生長期 春処理5月中旬～下旬 (耕起10日以前) (水量50～100L)	600～750ml	フキ				
				は種前雑草茎葉散布 (は種床の雑草発生揃期) (は種10日前～は種当日) (水量50～100L)	200～300ml	一年生及び多年生雑草・ ギシギシ類				
ラウンドアップ マックスロード	普	1L 2L 5.5L 20L 200L	雑草の生育期 (耕起10日以前) (水量25～50L)	200～300ml	一年生及び多年生雑草					
			ギシギシ類の生育期 (耕起10日以前) (水量25～50L)	300～500ml	ギシギシ類					
			は種前雑草茎葉散布 (は種床の雑草発生揃期) (は種10日前～は種当日) (水量50L)	200～300ml	一年生及び多年生雑草・ ギシギシ類					

環境条件	気高	温低	土壌湿度	湿度乾	処理後		残効期間	使用回数	RACコード	成分名	注意事項
					降雨	移動					
○	△	◎	○	△	中	長	1	H:5	アトラン	・多量の降雨が予想される時は、薬害を生じる可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。 ・ゲザプリムフロアブルは、土壌処理又は生育処理のいずれか1回のみ。 ・ゲザプリムの使用回数は1回(単剤か混合剤のいずれか1回)。	
○	△	◎	×	○	小～中	長	1	H:15	アラクロール	・雑草の発生後はほとんど効果が無い。	
○	△	◎	△	○	小～中	長	1	H:5 H:15	アトラン S-アトラクロール	・多量の降雨が予想される時は、薬害を生じる可能性があるため使用を避ける(砂土系で透水性の良い場合は特に注意する)。 ・ゲザプリムフロアブル+デュアルゴールドの混合剤です。 ・砂地では使用しないこと。 ・ゲザプリムの使用回数は1回(単剤か混合剤のいずれか1回)。	
○	○	◎	○	○	小	短	1	H:27	トルビラレート	・散布時の展開薬に薬害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。	
○	○	◎	○	○	中	短	1	H:27	トブラメゾン	・散布時の展開薬に薬害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。 ・雑草発生の多いほ場では、初期成育での競合が懸念されるため、土壌処理剤との併用が望ましい。 ・シバムギには効果が劣る。	
○	○	◎	○	○	小	短	1	H:2	ニコスルホン	・散布数日後、一時的に退色及び生育抑制を生じることがある。 ・雑草が大きくなる。効果が劣るので雑草の2～3葉期迄に散布する。 ・少量の成分で除草効果があるのでタンク・ノズル・ホース内の洗浄を専用の洗浄剤による)を十分に行う。薬剤が残っていると他作物に使用した場合薬害の原因となる。 ・シバムギ、レッドトップに効果がある。	
							1	H:18	アシュラム	・散布後14日間は放牧を行わない。 ・夏、秋期は種草地への当分の散布を避ける。 ・当年はギシギシ類の黄化のみで、翌年春に枯死する。 ・秋期散布は最終採草後に行う。	
							1	H:2	チフェンソロンメチル	・イネ科単播草地に限る。(クローバーには薬害が生じる) ・夏処理についてはイネ科牧草にも生育抑制が見られることがある。 ・少量の成分で除草効果があるのでタンク・ノズル・ホース内の洗浄を専用の洗浄剤による)を十分に行う。薬剤が残っていると他作物に使用した場合薬害の原因となる。 ・本剤散布後21日間は採草及び放牧を行わない。 ※P.48参照	
							※1 2	H:9	グリホサート イプロピルアミン塩	・草地造成更新用地では耕起10日以前に散布すること。 ・散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがある。 ・刈り取り後、前植生の再生を得て処理する。 ・専用ノズルを使用する。	
							※1 2	H:9	グリホサート カリウム塩	・草地造成更新用地では耕起10日以前に散布すること。 ・散布後3時間は降雨のない日に散布する。 ・刈り取り後、前植生の再生を得て処理する。 ・専用ノズルを使用する。	
							※1 3	H:9	グリホサート カリウム塩	・草地造成更新用地では耕起10日以前に散布すること。 ・散布後1時間は降雨のない日に散布する。 ・刈り取り後、前植生の再生を得て処理する。 ・専用ノズルを使用する。	

※1:グリホサートの総使用回数3回まで

◎除草剤 2 (小麦収穫跡地・非農耕地)

作物名	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果				
						シロサ	タデ	ハコベ	ツユクサ	イネ科一年生
小麦収穫跡地	クサトリキング	普	5L 20L 200L	雑草生育期 (耕起前まで) (草丈30cm以下) (水量25~100L)	250~500ml	多年生イネ科雑草				
	タッチダウン i Q	普	1L 5L 20L 200L	雑草生育期 (耕起3日以前)	500~750ml	多年生イネ科雑草				
	ラウンドアップ マックスロード	普	1L 2L 5.5L 20L 200L	雑草生育期 (耕起前まで) (水量25~100L)	200~500ml	多年生イネ科雑草				

環境条件				残効期間	使用回数	RACコード	成分名	注意事項
気温 高 低	土壌湿度 湿 乾	処理後 降雨 移動						
					※2 3	H:9	グリホサート イソプロピルアミン塩	<ul style="list-style-type: none"> 小麦収穫後、シバムギ15cm以上に再生してから散布すること。 散布後、効果が現れるまで7~14日を要する。 散布後6時間は降雨のない日に散布する。 専用ノズルを使用する。
					※2 1	H:9	グリホサート カリウム塩	<ul style="list-style-type: none"> 小麦収穫後、シバムギ15cm以上に再生してから散布すること。 散布後、効果が現れるまで7~14日を要する。 タッチダウン i Qは、散布後3時間は降雨のない日に散布する。 ラウンドアップマックスロードは、散布後1時間は降雨のない日に散布する。 専用ノズルを使用する。
					※2 3	H:9	グリホサート カリウム塩	<ul style="list-style-type: none"> 小麦収穫後、シバムギ15cm以上に再生してから散布すること。 散布後、効果が現れるまで7~14日を要する。 タッチダウン i Qは、散布後3時間は降雨のない日に散布する。 ラウンドアップマックスロードは、散布後1時間は降雨のない日に散布する。 専用ノズルを使用する。

※2：グリホサートの総使用回数3回まで

◎非農耕地

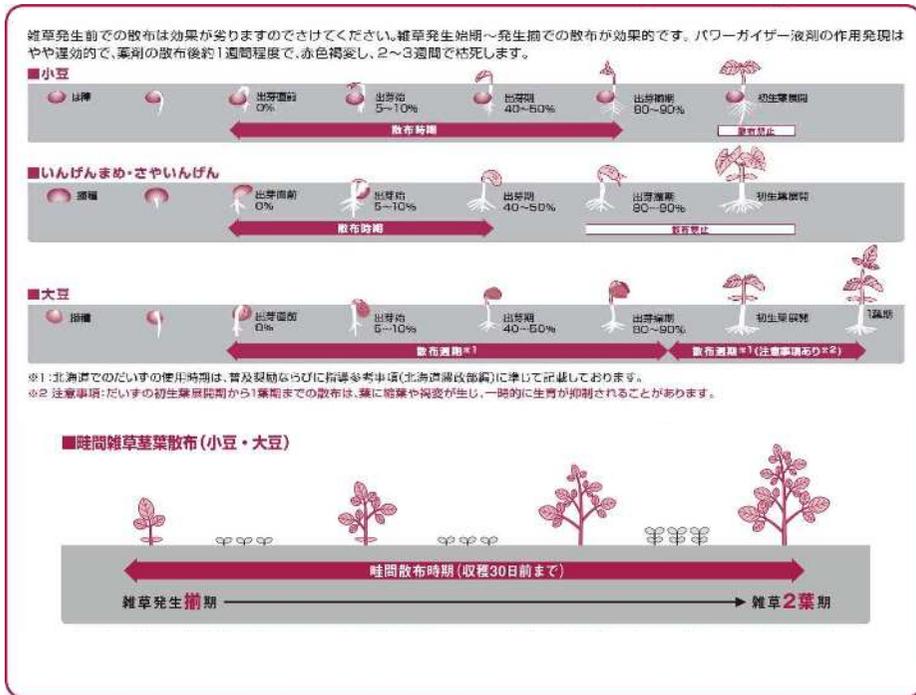
項目	農薬名	毒性	容器規格	使用時期	10a当薬量	草種別除草効果
除草剤	タッチダウン i Q	普	1L 5L 20L 200L	雑草生育期	250~2,000ml	一年生・多年生の イネ科及び広葉雑草
	ラウンドアップ マックスロード	普	1L 2L 5.5L 20L 200L		200~2,000ml	
	ザイトロンアミン液剤	普	500ml		500~1,000ml	
	バスタ液剤	普	500ml 5L		500~2,000ml	一年生・多年生の イネ科及び広葉雑草
	ザクサ液剤	普	500ml 6L		500~2,000ml	一年生・多年生の イネ科及び広葉雑草
	ダイロンゾル	普	500ml	雑草発生前~ 生育初期	1,000~2,000ml	一年生雑草
				コケ類生育期	500~1,000ml	コケ類

環境条件	使用回数	RACコード	成分名	注意事項
宿根性の雑草にも効果あり	※2 3	H:9	グリホサート カリウム塩	<ul style="list-style-type: none"> 他の作物に飛散しない様注意すること。 葉や茎から吸収移行型の除草剤ですので散布前後に草を刈り取ったり耕起しないこと。 雑草の大きさや発生量により、薬量・散布量を増減すること。 ラウンドアップマックスロード及びタッチダウン i Qは、希釈倍率25倍でスギナに効果がある。
	※2 3	H:9	グリホサート カリウム塩	<ul style="list-style-type: none"> 他の作物に飛散しない様注意すること。 葉や茎から吸収移行型の除草剤ですので散布前後に草を刈り取ったり耕起しないこと。 雑草の大きさや発生量により、薬量・散布量を増減すること。 ラウンドアップマックスロード及びタッチダウン i Qは、希釈倍率25倍でスギナに効果がある。
	3	H:4	トリクロピル トリエチル アソモニウム	<ul style="list-style-type: none"> ホルモン系除草剤で多年生宿根性の広葉雑草に効果大。 ザイトロンアミン液剤はコンフリーにも効果がある。
	3	H:10	グリホサート	
	3	H:10	グリホサートP ナトリウム塩	
	3	H:5	DCMU	

※2：グリホサートの総使用回数3回まで

◎除草剤の使い方 1

◆パワーガイザー液剤の使用方法



パワーガイザーQ&A

Q1: どの時期まで使えるのか?

A1: 小豆では初生葉(最初の双葉)が開き切るまでに散布して下さい。菜豆(金時類)では子葉から初生葉が出始めるまでに散布して下さい。大豆では出芽揃い、または初生葉展開期から1葉期までに散布して下さい。

Q2: 散布ノズルは何を使えば良いのか?

A2: ドリフト(飛散)を避けるために除草剤用のドリフトレスノズルをお勧めします。

Q3: 土壌乾燥時は散布水量を増やす必要があるか? 散布水量を減らさないか?

A3: どんな土壌条件(土質、土性、土壌水分)でも水量100L/10aで散布して下さい。

Q4: パワーガイザー液剤とアブラムシ用殺虫剤との混用、近接散布は?

A4: 薬害が助長されることがありますので、有機燐系殺虫剤との混用、パワーガイザー液剤散布前後の10日以内の近接散布は行わないで下さい。有機塩素系殺虫剤との混用、近接散布も行わないで下さい。

Q5: パワーガイザー液剤とイネ科雑草用茎葉処理除草剤との混用、体系処理は?

A5: 薬害が助長されることがありますので、混用、10日以内の近接散布はしないで下さい。パワーガイザー液剤は散布時に発生後～2葉期の「一年生イネ科雑草」にも効果がありますので、混用、近接散布の必要はありません。

Q6: パワーガイザー液剤散布後の降雨の影響は?

A6: 散布後6時間以降の降雨には影響されません。また、6時間以内の降雨でも除草効果が全くなくなることはありませんので、2度撒きをしないで下さい。

Q7: 気温の影響は?

A7: 散布時高温条件(25℃以上)では薬害が出やすくなりますので、気温が高くなる日は日中の散布を避けて下さい。散布後低温が続くと、雑草を枯死させるのに時間がかかることがありますが、最終的な除草効果には影響ありません。



◆除草剤の記号説明

除草効果=◎: 極大(残草量0~10%)	○: 大(残草量10~20%)	
△: 中(残草量20~40%)	×: 小~無(残草量40%以上)	
環境条件=◎: 効果がより高まる	○: 効果が高まる	
△: 変わらない	×: 効果が劣る	
移動性の程度= 極小: 0~1cm	小: 1~2cm	中: 2~4cm
大: 4~6cm	極大: 6cm以上	
残効期間の区分= 極短: 1日以内	短: 2~10日	中: 11~20日
長: 21~30日	極長: 30日以上	

※メーカーによる相対評価であり、薬剤どおしの効果を比較するものではありません。

◆除草剤の効果を高めるためには

砕土、整地は、ていねいに。又、覆土は均一に。

◆防除は日中を避け、風のない朝早くか夕方実施すること。

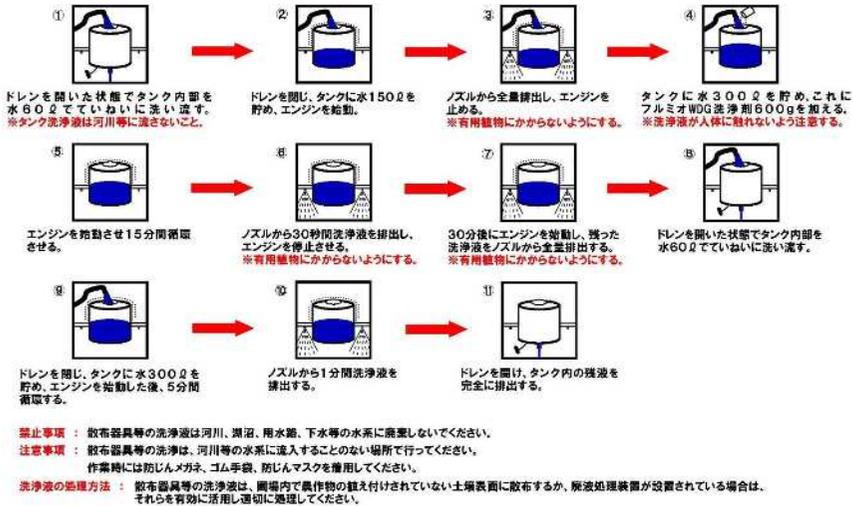
◆除草剤専用の「ふん口」を使用してください。

※除草剤が変わった場合は必ず「タンク」を十分に洗ってから使用すること。
(特に生育間処理は注意すること)

◎除草剤の使い方 2

◆フルミオ洗浄剤による散布器具の洗浄方法

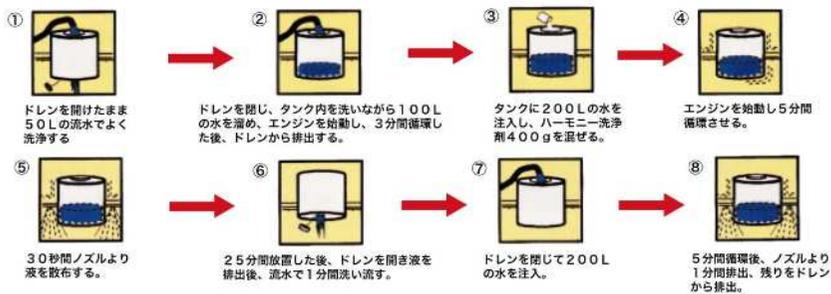
フルミオWDG散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう、使用後できるだけ早く水とフルミオ洗浄剤で洗浄し、他の作物に対する薬害の原因とならないよう注意して下さい。(下図①～⑪の順番に洗浄作業を行って下さい)



※タンク容量 1,000L の場合

◆ハーモニー洗浄剤による散布器具の洗浄方法

ハーモニー75DF水和剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後、できるだけ早く水とハーモニー洗浄剤で洗浄し、他の作物に対する薬害の原因にならないよう注意して下さい。(下図①～⑧の順番に洗浄作業を行って下さい)



※タンク容量 1,000L 前後を対象とする

◆デシカン乳剤の使用法

作物名	使用目的	使用時期	反当り使用量		使用回数	使用方法	ピラフルフェニエチルを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
馬鈴薯	茎葉枯凋	茎葉黄変期 (茎葉黄変始め～ 収穫3日前まで)	250ml ～ 450ml	100L	2回	茎葉散布	2回

デシカン乳剤の特性

- (1) 植物体の葉面から速やかに吸収されるが、体内移行はありません。(接触型)
- (2) 光の存在下で、植物のクロロフィル合成過程の中間体であるプロトボルフィリンIXの蓄積に伴い活性酸素が発生し、細胞膜を破壊することにより植物体を枯死させる。

薬剤の性質

- (1) 枯凋速度はジクワット剤より遅く、3～5日で茎葉が枯凋し始め、8～10日でほぼ枯凋する。
- (2) 葉に比べ茎の枯凋発現がやや遅いが、最終的にはほぼ枯凋する。
- (3) 降雨の影響：処理2～3時間以降の降雨では、枯凋効果の変動は小さい。
- (4) 馬鈴薯塊茎への移行はなく、品質への影響はない。維管束褐変について影響は認められない。(ただし、土壌が極端に乾燥している時は除く)

使用上の注意事項

- (1) 散布時期は「茎葉黄変期」を厳守し、スプレイヤーで馬鈴薯の茎葉に十分かかるように散布すること。黄変期前での散布では、十分な効果が得られない可能性があります。
- (2) 土壌が極端に乾燥しているときの使用を避ける。(生理的ストレスにより維管束褐変が生じやすくなる)
- (3) 散布直後に降雨が予想される時には使用を避ける(茎葉への浸透に2～3時間程度必要)。
- (4) 1回処理を原則とするが、1回で不十分な場合に限って2回目の散布処理を行う。2回目処理は、1回目処理後3～6日後に散布する。
- (5) 広葉雑草に対しては速攻的に除草効果を示すが、イネ科雑草に対する効果はない。

◎種子処理用殺虫・殺菌剤の使い方

◆クルーザーMAXX・クルーザーFS30

農薬名	作物名	適用病害虫名	処理量	使用時期	使用回数	チアトキシムを	メタキシムを	フロンゾノールを	使用方法
						含む農薬の 総使用回数	含む農薬の 総使用回数	含む農薬の 総使用回数	
クルーザーMAXX	だいず	タネバエ アブラムシ 立枯病	原液8ml/ 乾燥種子	は種前	1回	3回	4回	1回	塗沫処理
	いんげんまめ		3回			1回	4回		
	あずき	タネバエ アブラムシ 茎疫病	1Kg			1回	4回	1回	
クルーザーFS30	だいず	タネバエ アブラムシ	原液6ml/ 乾燥種子	は種前	1回	3回			
	あずき		1Kg						
	いんげんまめ		1Kg						

クルーザーFS30の特性

- は種前の種子処理により、発芽直後からアブラムシを防除します。
- 種子処理の為、天候に左右されず、防除適期を逃さないで安心です。
- フロアブル製剤の為、いやな臭い、粉立ちもなく安心して作業が出来ます。

クルーザーMAXXの特性

- 上記の特性に加え、2種類の殺菌成分が、茎疫病、苗立枯病等の病害を予防します。

クルーザーの有効成分チアトキシムは、直接種子に吸収されて、あるいは土壤中に拡散したあと根から吸収されるので、芽が出たときから効果を発揮します！

使用上の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってから、塗沫処理を行って下さい。
- 薬剤は、水等で希釈せず使用して下さい。
- 薬剤が種子に均一に付着するように処理して下さい。
- 薬剤を処理した種子を食用など農業以外の分野に利用しないで下さい。
- 使用量・使用時期・使用方法を誤らないように注意して下さい。

クルーザーMAXX・クルーザーFS30 Q&A

Q1: 種子への処理は、いつ行えば良いのでしょうか？

A1: クルーザーMAXX・クルーザーFS30は、事前に処理し十分に乾燥させてからは種する。

<豆種別乾燥度合>

大豆 > 菜豆 > 小豆

(乾きやすい)

(乾きづらい)

Q2: クルーザーを処理すれば、殺菌剤の処理は不要ですか？

A2: いいえ。クルーザーFS30は殺菌剤成分しか含んでいませんので、農薬使用ガイドにそった種子消毒を行って下さい。また、クルーザーMAXXについても、豆種によっては殺菌剤の処理が必要となります。

Q3: 根粒菌や殺菌剤も同時に処理したいのですが、どうしたら良いですか？

A3: 液剤→粉剤の順に塗沫処理して下さい。例えば、クルーザーを先に塗沫処理して、乾燥させてから粉剤タイプの薬剤を粉衣して下さい。逆の順番で処理すると、粉がだまになって均一に処理できない場合があります。クルーザーは根粒菌の活性にも影響がないことが分かっています。

例) 処理順 ・大豆 ①クルーザーMAXX → ②(根粒菌)
 ・小豆 ①クルーザーMAXX → ②(根粒菌)
 ・菜豆 ①クルーザーFS30 → ②(根粒菌)

Q4: クルーザーのアブラムシに対する残効性はどのくらいですか？

A4: 気象条件、アブラムシの発生状況によりますが、約1ヵ月間と考えられます。

Q5: クルーザーを使えば、アブラムシに対する殺虫剤の散布は必要ないですか？

A5: クルーザーMAXX・クルーザーFS30の残効性は約1ヵ月程度と考えられており、生育中期以降のアブラムシには効果が期待できません。また、アブラムシの発生状況はその年の気温などによって変動しますので、は種後1ヵ月以内でもほ場を観察してアブラムシの発生が見られた場合には茎葉散布剤で追加防除して下さい。

例) 大豆の場合

使用薬剤	使用時期	480日度※ (初生葉展開期)	初生葉展開期から 7~10日後	は種後 1ヵ月
	クルーザーMAXX クルーザーFS30		茎葉散布剤不要	茎葉散布剤不要

※480日度：4月1日からの積算温度。おおよそ初生葉展開期。

クルーザーMAXX・クルーザーFS30処理方法



◎くん煙剤（使用方法の目安）

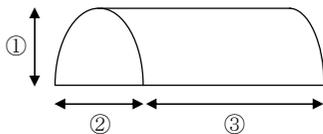
くん煙剤名	作物名	適用病害虫名	1個(錠)の製品規格	使用量の目安			適正使用基準		RACコード	成分名	
				1個でくん煙できる容積	(単棟型ハウス)で高さを平均3.5mとして		使用時期	使用回数			
					1個での処理面積の目安	100坪(約333㎡)					200坪(約666㎡)
トリフミントジェット	きゅうり ピーマン メロン	うどんこ病	50g	400㎡	約49坪(約163㎡)	2錠	4錠	前日	5回	F:3	トリフミゾール
	トマト ミニトマト	葉かび病									
ロブラールくん煙剤	トマト ミニトマト	灰色かび病	50g	150~200㎡	約18~24坪(約61~81㎡)	4~5錠	8~10錠	前日	3回	F:2	イロジオン
	きゅうり ピーマン	菌核病							4回		
	メロン	菌核病 つる枯病									
モスピラントジェット	きゅうり	アブラムシ コナジラミ ミカンキイロアザミウマ	50g	400㎡	約49坪(約163㎡)	2錠	4錠	前日	3回	I:4A	アセタミプリド*
	トマト ミニトマト	コナジラミ ミカンキイロアザミウマ							2回		
	メロン ピーマン	アブラムシ									
マブリックジェット	きゅうり メロン	アブラムシ ハダニ	50g	400㎡	約49坪(約163㎡)	2錠	4錠	前日	2回	I:3A	フルバリネート
	メロン	ハダニ						3日			
テルスタートジェット	きゅうり メロン	アブラムシ ハダニ	48g	400㎡	約49坪(約163㎡)	2缶	4缶	前日	3回	I:3A	ヒフェントリン
	メロン	アブラムシ ハダニ						4回			

◎くん煙剤の薬量の目安

- ・くん煙剤は薬量の過不足によって薬害が出たり効果不足になるので、ハウス容積を正しく測り適正量で処理をしましょう。

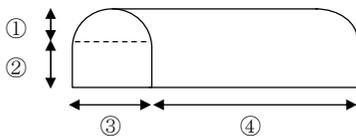
<ハウスの容積の計算方法>

○単棟型ハウス



- ・ハウスの容積 高さ×間口×奥行×0.7
《計算例》①高さ：2.2m ②間口：6m ③奥行き：50mの場合、ハウスの容積は462㎡
- ・薬量の計算
ハウスの容積 ÷ 1錠又は、1袋で防除できる容積 = 必要量

○腰高型ハウス



- ・ハウス容積 { (①肩から天井までの高さ×③間口×0.7) + (②肩までの高さ×③間口) ×④奥行き
《計算例》肩から天井までの高さ：1.5m 肩までの高さ：2m 間口5.2m 奥行き：50mの場合、ハウスの容積は793㎡

◎展着剤の種類

	農薬名	規格	適用作物	散布液100当り当使用量	RACコード	適用作物名
一般展着剤	グラミンS	500ml 5L 10L	稲、麦、キャベツ等の葉液のつきにくい作物	10~30ml	—	有機リン剤、カーバメート剤などの殺虫剤、殺菌剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質などの殺菌剤
	ネオエステリン	500ml	はくさい、きゅうり、ばれいしょ、果樹等の葉液のつきやすい作物 葉液のつきにくい農作物等	5~10ml	—	各種農薬
	ハイテンパワー	500ml 5L	麦類	10~20ml (10,000~5,000倍)	—	殺菌剤、殺虫剤
			野菜類			
			いも類			
			てんさい			
			豆類(種実)			
	雑穀類					
	ダイコート	500ml 5L	葉液のつきにくい農作物等	50ml (2,000倍)	—	イミダクワシリン酢酸塩剤(ベフラン液剤)、有機銅剤、イロジオン等の殺菌剤
	レナテン	500ml 5L	除草剤の登録内容の作物	100~500ml	—	(除草剤) レナシル・PAC、リネオン、バコート、ジクワット、プロマシル、DCMU、シアン酸ソーダ、メタミロン水和剤、フェンメチイファム乳剤、クレトジム乳剤、セトキシム乳剤
てんさい			100~200ml	—	(除草剤) フェンメチイファム水和剤、フェンメチイファム・メタミロン水和剤、フルアジホップP乳剤、アトランジン・S-メトラコロール水和剤、アトランジン水和剤、チフェスルフロシメタル水和剤、ジメタナジドP・レナシル水和剤	
てんさい			100~200ml	—	キョボップエチル水和剤	
機能性展着剤	クミアイニーズ	500ml 5L	野菜類、豆類(種実) いも類、麦類、てんさい	50~100ml	—	殺菌剤、殺虫剤
	アプローチBI	500ml 5L 18L	非選択性除草剤の登録内容の作物	100~200ml	—	ジクワット、バコート、DCMU、ターベシル、プロマシル等の非選択性除草剤
			稲、麦類、果樹類、野菜類 花き類、茶、芝等	100ml	—	殺虫剤、殺菌剤
			野菜類、いも類、豆類	50ml	—	殺虫剤、殺菌剤
	アピオンE	1L 5L 10L	野菜類、花き類、観葉植物	100~200ml (1,000~500倍)	—	殺虫剤、殺菌剤
			小麦、芝	50~200ml (2,000~500倍)	—	殺菌剤
	まくびか	500ml 5L	麦類、野菜類、てんさい 豆類(種実)、いも類 茶、芝等	10~33ml (10,000~3,000倍)	—	殺虫剤、殺菌剤
			果樹類	10~20ml (10,000~5,000倍)	—	殺虫剤、殺菌剤
ドライバー	500ml 5L	穀類、野菜類、果樹類 花き類・観葉植物	20~100ml (5,000~1,000倍)	—	殺虫剤、殺菌剤	
		茶、芝	20~100ml (5,000~1,000倍)	—	殺虫剤、殺菌剤	

区分	作物名
ぬれの悪い作物	小麦、ねぎ、たまねぎ、てんさい、キャベツ、大豆
ぬれの中程度の作物	ばれいしょ、かぼちゃ、トマト、ナス、イチゴ、メロン
ぬれの良い作物	小豆、菜豆類、とうもろこし、きゅうり、なし、りんご

薬剤を混用する場合、下記の順序で行うのが基本です。

①水 → ②展着剤 → ③乳剤 → ④液剤 → ⑤フロアブル(SC)剤 → ⑥水和剤

展着剤の使い方

◆展着剤はなぜ必要か

- (1) 農薬と水がよくなじみ、混合をよくする。
- (2) 乳剤と水和剤を混合するとき、凝固して沈殿するのを防ぐ。
- (3) 作物に付着しやすくなる。
- (4) 農薬の効果を高めるための効果である。

ドローンによる農薬等の空中散布を行う皆さんへ 航空法に基づく飛行の許可・承認手続きについて

令和元年7月、農業用ドローンの利活用拡大に向けて各種規制の見直しが行われました。今後、ドローンを使って農薬等を散布する場合には、以下を参照ください。

事前に国土交通省への許可・承認の申請を行ってください。

- ドローンを用いて農薬等を散布する場合には、散布予定日の少なくとも**10開庁日前**までに申請を行ってください（オンライン申請、郵送又は持参）。
- 許可・承認の申請の際には、①ドローン機体の機能・性能、②操縦者の飛行経歴・知識・技能、③空中散布に係る安全確保体制（飛行マニュアルなど）に関する資料の提出が必要です。



許可・承認の申請時の提出資料の一部は省略できます。

- 機体の機能・性能に関する資料の一部の省略
→「資料の一部を省略できる無人航空機」を使用する
<http://www.mlit.go.jp/common/001261997.pdf>
- 操縦者の飛行経歴・知識・技能に関する資料の一部の省略
→「無人航空機の講習団体及び管理団体」の講習を受講する
<http://www.mlit.go.jp/common/001220070.pdf>
- 空中散布に係る安全確保体制に関する資料の一部の省略
→「航空局標準マニュアル（空中散布）」を使用する
<http://www.mlit.go.jp/common/001301400.pdf>



許可・承認の申請は代表者（代行者）による申請も可能で、ドローン販売店等でも受け付けている場合があります。

航空法の許可・承認手続きについては、国土交通省航空局からの情報をご確認ください。
航空局ホームページ http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr10_000042.html
無人航空機ヘルプデスク ☎03-4588-6457（受付時間：平日午前9時～午後5時まで）

無人航空機（無人ヘリコプター等）で使用可能な農薬に関する情報
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/nouyaku.html>

ドローンによる農薬等の空中散布を行う皆さんへ 農薬等の空中散布を行う際の留意事項について

農薬散布を行う際には、農薬ラベルの記載事項を守るとともに、あらかじめ農薬の空中散布に係る安全ガイドラインに記載の留意事項を確認してください。



<ガイドラインの主な留意事項>

- ・ほ場周辺の地理的状況（住宅地、水道水源等）、耕作状況（収穫時期、有機農業が行われているほ場等）等を十分に勘案し、**実施除外区域の設定**や**散布薬剤の種類、剤型の選定**などを含めた**散布計画の作成**
- ・実施区域周辺（公共施設、民家、巣箱を設置している養蜂家、有機農業に取り組む農家等）への**事前の情報提供**
- ・実施区域内への**第三者の侵入防止**
- ・空中散布時の留意事項
 - －**風向き**を考慮した飛行経路の設定
 - －**散布方法**（飛行速度、飛行高度、飛行間隔及び最大風速）は、機体メーカーが取扱説明書等に示した散布方法を参考に行う。
 - －散布の際には、農薬の散布状況及び気象条件の変化を随時確認しながら、**散布区域外への飛散（ドリフト）**が起らないよう十分に注意する。

無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン
http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/attach/pdf/120507_heri_mujin-115.pdf



日中・夜間の目視内、又は日中の目視外での空中散布において、**立入管理区画の設定等**を行えば、操縦者の補助を行う者（ナビゲーター）を配置する必要はありません。

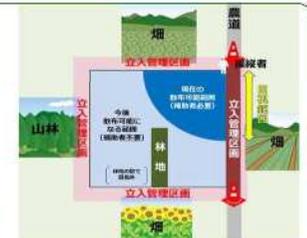
- 詳細は航空局標準マニュアルを参照ください。

航空局標準マニュアル（空中散布）
<http://www.mlit.go.jp/common/001301400.pdf>



マニュアルの安全体制をとれば、人の手を借りなくても済むな。

ご近所へのお知らせと田んぼ周りの注意喚起はしっかりとお願いね。



<立入管理区画の設定イメージ>

【お問い合わせ先】

農林水産省消費・安全局植物防疫課 防疫対策室国内防除第2班 ☎03-3502-8111（内線4562）

無人航空機（無人ヘリコプター等）による農薬等の空中散布に関する情報
https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120507_heri_mujin.html

◎浸透移行性・浸達性

浸透移行性：処理した薬剤が、作物体内で移動すること。

浸達性：処理した薬剤が、葉の表面から裏面へしみ込む作用のこと。浸達性のみの場合には、作物体内を移動しない。

浸透移行性 浸達性	○：浸透移行性が認められる。
	●：浸達性のみ認められる。
	△：浸透移行性が認められるが強い。
	×：浸透移行性が認められない。

○殺虫剤

品名	分類	浸透移行性 浸達性	適用作物						
			小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれい しよ	てん さい	野菜類
アクセルフロアブル	セミカルバゾン	×							○
アクタラ顆粒水和剤	ネオニコチノイド	○							○
アグリメック	マクロライド	●							○
アディオン乳剤	合ピレ	×							○
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド	○							○
アフーム乳剤	マクロライド	●							○
ウララDF	同翅目摂食阻害剤	○	○	○	○	○	○	○	○
エスマルクDF	B T 生菌	×							○
オルトラン水和剤	有機リン	○							○
カルホス乳剤	有機リン	△							○
カスケード乳剤	ベンゾイル尿素	×						○	○
ガードナーフロアブル	ネオニコ・スピノシン	○・×							○
グレーシア乳剤	イソオキサゾリン	●							○
グットアウトWDG	合ピレ	×		○	○		○		○
コテツフロアブル	ピロール	×							○
コルト顆粒水和剤	他合成	△							○
コロマイト乳剤	マクロライド	×							○
ジュリボフロアブル	ネオニコ・ジアミド	○							○
スタークル顆粒水和剤	ネオニコチノイド	○							○
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン	×							○
スミチオン乳剤	有機リン	●	○	○	○				
ダイアジノン乳剤40	有機リン	●							○
ダニトロンフロアブル	M E T I	×							○
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	○				○			
チェーンアップ顆粒水和剤	B T 生菌	×							○
ディアナSC	スピノシン	△			○				○
トクチオン乳剤	有機リン	△							○
トルネードエースDF	他合成	×							○
ニッソラン水和剤	成長阻害剤	×							○
バイスロイド乳剤	合ピレ	×			○	○			
パダンSG水溶剤	ネライストキシ	○							○
ピレスコ顆粒水和剤	スルホキシイミン	○					○	○	
ファインセーブフロアブル	フロメトキン	×							○
ファルコンエースフロアブル	スピノシン・ベンゾイル尿素	×							○
ブレオフロアブル	他合成	×							○
フローバックDF	B T 生菌	×							○
プレバソフロアブル	ジアミド	△		○	○				○
プロフレアSC	メタジアミド	●							○
ベネピアOD	ジアミド	○							○
バリマークSC	ジアミド	○							○
モスピランSL液剤	ネオニコチノイド	○		○	○				○
ランネット45DF	カーバメート	○							○
リーズン顆粒水和剤	ネオニコ・ベンゾイル尿素	○・●						○	
リーフガード顆粒水和剤	ネライストキシ	○							○

○殺菌剤

品名	分類	浸透移行性 浸達性	適用作物						
			小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれい しよ	てん さい	野菜類
Zボルドー	無機銅	×							○
アミスター20フロアブル	Q o I	○							○
アフエットフロアブル	S D H I	●							○
イオウフロアブル	無機化合物	×							○
イデクリーン水和剤	無機化合物・無機銅	×							○
オラクル顆粒水和剤	Q i I	●					○		○
オルフィンフロアブル	S D H I	○			○	○			
カスミンボルドー	抗生物質・無機銅	○・×				○	○		○
カピナイスPZ水和剤	ジメチル・ジチオカーバメート	○・×					○		
カンタスドライフロアブル	S D H I	△	○						○
グットクル水和剤	DMI・ジチオカーバメート	○・×							○
クプロシールド	無機銅	×					○		○
グリーンダイセンM水和剤	ジチオカーバメート	×					○	○	○
グリーンベンコゼブ水和剤	ジチオカーバメート	×					○	○	○
コサイド3000	無機銅	×							○
シグナムWDG	Q o I・SDHI	○・△							○
シルバキュアフロアブル	D M I	○							○
スクレタン水和剤	ジカルボキシイミド・無機銅	△・×							○
スターナ水和剤	カルボン酸	△					○		○
ストロビーフロアブル	Q o I	×							○
スミレックス水和剤	ジカルボキシイミド	△							○
ゾーベックエンカンティアSE	Q o I・OSBPI	●・○					○		
ダコニール1000	クロロニトリル	×							○
ダコニールエース	クロロニトリル	×							○
タチガレン液剤	芳香族ヘテロ環	○							○
チルト乳剤25	D M I	○					○		○
テーク水和剤	DMI・ジチオカーバメート	○・×							○
トップジンM水和剤	ベンゾイミダゾール	○	○	○	○	○			○
トリフミン水和剤	D M I	△							○
バクテサイド水和剤	抗生物質・無機銅	○・×							○
バシタック水和剤75	S D H I	△							○
バラライカ水和剤	DMI・フタルイミド	○・×	○						○
バリダシン液剤5	抗生物質	△						○	○
パレード20フロアブル	S D H I	△							○
ピシロックフロアブル	その他	●							○
フリントフロアブル25	Q o I	●						○	
プロボース顆粒水和剤	C A A・クロロニトリル	○・×			○			○	○
プロラインフロアブル	D M I	○					○		
フロンサイドSC	その他	×			○			○	○
ブライア水和剤	多成分	○			○	○			
ベトファイター顆粒水和剤	多成分	○							○
ペフラン液剤25	ビスグアニジン	×			○				
ベルコート水和剤	ビスグアニジン	×							○
ホクガード乳剤	D M I	○							○
ホライズンドライフロアブル	Q01・シアノアミド・ホキシム	●・○					○		○
マスタピース水和剤	微生物	×							○
ミラピスフロアブル	S D H I	○			○				
ミリオネアフロアブル	S D H I	○			○				○
ムケツDX	ジチオカーバメート・テトラグリリン	○・×						○	
メジャーフロアブル	Q o I	○							○
モンカットフロアブル40	S D H I	○							○
ランマンフロアブル	Q i I	●					○		○
リンバー顆粒水和剤	S D H I	○						○	
レーバスフロアブル	C A A	●					○		
リドミルゴールドMZ	ジチオカーバメート・フェニルイミド	○・×			○				○
ロブラール水和剤	ジカルボキシイミド	×							○
銅ストマイ水和剤	抗生物質・無機銅	○・×					○		

農 薬 希 釈 早 見 表

倍数	容 量 別 薬 量 (g 又は ml)										
	100L	800L	1,000L	1,100L	1,200L	1,300L	1,500L	2,000L	3,000L	5,000L	6,000L
100	1,000	8,000	10,000	11,000	12,000	13,000	15,000	20,000	30,000	50,000	60,000
200	500	4,000	5,000	5,500	6,000	6,500	7,500	10,000	15,000	25,000	30,000
300	333	2,666	3,333	3,666	4,000	4,333	5,000	6,666	10,000	16,666	20,000
400	250	2,000	2,500	2,750	3,000	3,250	3,750	5,000	7,500	12,500	15,000
500	200	1,600	2,000	2,200	2,400	2,600	3,000	4,000	6,000	10,000	12,000
600	166	1,333	1,666	1,833	2,000	2,166	2,500	3,333	5,000	8,333	10,000
700	142	1,142	1,428	1,571	1,714	1,857	2,142	2,857	4,285	7,142	8,571
800	125	1,000	1,250	1,375	1,500	1,625	1,875	2,500	3,750	6,250	7,500
900	111	888	1,111	1,222	1,333	1,444	1,666	2,222	3,333	5,555	6,666
1,000	100	800	1,000	1,100	1,200	1,300	1,500	2,000	3,000	5,000	6,000
1,200	83	666	833	916	1,000	1,083	1,250	1,666	2,500	4,166	5,000
1,500	66	533	666	733	800	866	1,000	1,333	2,000	3,333	4,000
2,000	50	400	500	550	600	650	750	1,000	1,500	2,500	3,000
2,500	40	320	400	440	480	520	600	800	1,200	2,000	2,400
3,000	33	266	333	366	400	433	500	666	1,000	1,666	2,000
4,000	25	200	250	275	300	325	375	500	750	1,250	1,500
5,000	20	160	200	220	240	260	300	400	600	1,000	1,200
6,000	16	133	166	183	200	216	250	333	500	833	1,000
10,000	10	80	100	110	120	130	150	200	300	500	600

※農薬倍率表の見方

(例) 1,200Lのタンクに500倍液を作る場合、農薬を2,400g入れる。

倍数	薬剤1袋又は1瓶でできる散布水量 (リットル)					
	100 g(ml)	250 g(ml)	300 g(ml)	500 g(ml)	1 Kg(L)	2 Kg(L)
100	10	25	30	50	100	200
200	20	50	60	100	200	400
300	30	75	90	150	300	600
400	40	100	120	200	400	800
500	50	125	150	250	500	1,000
600	60	150	180	300	600	1,200
700	70	175	210	350	700	1,400
800	80	200	240	400	800	1,600
900	90	225	270	450	900	1,800
1,000	100	250	300	500	1,000	2,000
1,200	120	300	360	600	1,200	2,400
1,500	150	375	450	750	1,500	3,000
2,000	200	500	600	1,000	2,000	4,000
2,500	250	625	750	1,250	2,500	5,000
3,000	300	750	900	1,500	3,000	6,000
4,000	400	1,000	1,200	2,000	4,000	8,000
5,000	500	1,250	1,500	2,500	5,000	10,000
6,000	600	1,500	1,800	3,000	6,000	12,000
10,000	1,000	2,500	3,000	5,000	10,000	20,000

(例) 500g入りの農薬1袋で500倍液を作る場合、250Lの水に溶かす。